

# **Ensemble 14**

## **第 10 回演奏会**

*Wingzafu*

2005 年 9 月 25 日 (日) 14:30 開演  
日本大学カザルスホール



## Ensemble 14演奏会「マタイ受難曲 公演に寄せて・・・」

辻 秀幸

私はクリスチャンです。大学院の2年生の時に洗礼を受けました。

それ以来私は教会に通う事を通して、音楽を通してキリスト教文化に深く係わり合いを持って生きてきました。無論 私なりに・・・ではあります。

そこで注目したい人物はやはり毎週のように世界の教会で悪者にされ続けてきた「ピラト」と言う人物です。一言で言うと「イエスの死刑を決定した人物」として知られています。

しかし実際にイエスを死刑にしてくれるように請願したのはユダヤ人に象徴される群衆であり、一番の裏切り行為は弟子のユダの「イエスを金銭譲渡した」事であり、情けないのはペテロの否認です。寧ろピラトはイエスにも群衆にも様々な形で動きかけてイエスを助けようとし、しかしながら最後まで群衆の圧力に抗し切れず、彼らに十字架につけることを許可して引き渡してしまいます。

キリスト教では彼らの罪(群衆・ユダ・ペテロ・ピラト)は皆同罪であると説いています。

ユダはイエスが十字架につけられる前にその裏切り行為を恥じてイエスを取り戻しに行きますが相手にされずに自ら首をつって命を絶ちます。ペテロは己の行為を深く恥じてイエスの死後命がけで福音を述べ伝え、ネロ帝の迫害を受けた際に、自ら願ってイエスより先辛く逆さ十字架につけられて殉教したとされています。ピラトは未だに世界中の教会で毎週その名を呼ばれて悪者扱いにされています。ユダヤ人の受け続けた迫害に関しては取返して記すまでも無いことでしょう。

さあ、皆さん！ 貴方は誰に最も近い裏切り者になっていたのでしょうか・・・？

私がユダだったら・・・もしかしたらお金は我慢できるかもしれない、ペテロだったらやはり否認してしまったかも知れない。群衆だったら、せめて参加しないことぐらいは出来たかもしれない、しかし、ピラトだったら・・・私は確実に、恐れ戦きながらもイエスを引き渡していたに違いありません。今日はひとつ、そんな様々な場面に登場する人物達の犯した「罪」に着目してこのパッサの最高傑作をご鑑賞ください。エヴァンゲリスト・イエス・ピラトには現在日本で望みうる最高のソリストをお願いしてきました。オーケストラも古楽の名手ばかりです！！

そして合唱曲のみならずソロ曲も併せて学んだ Ensemble 14メンバー各人のこの曲に賭ける熱い思いをお楽しみください。くれぐれもお客様の受苦日になりませぬよう心して演奏させていただきます。

# ❁ プログラム ❁

作曲 ヨハン・ゼバスティアン・バッハ  
Johann Sebastian Bach ( 1685 - 1750 )

## マタイ受難曲 Matthäus - Passion BWV244

### 《 第1部 》

ゴルゴタへの道行  
受難の預言と大祭司たちの謀議  
香油を注いだベタニヤの女  
ユダの裏切り  
最後の晩餐  
オリーブ山にて  
ゲッセマネの苦悩  
捕縛

第1曲  
第2曲 ~ 第4b曲  
第4c曲 ~ 第6曲  
第7曲 ~ 第8曲  
第9曲 ~ 第13曲  
第14曲 ~ 第17曲  
第18曲 ~ 第25曲  
第26曲 ~ 第29曲

休 憩

### 《 第2部 》

イエスを探すシオンの娘と同情するエルサレムの娘、大祭司の審問  
ペテロの否認と後悔  
ユダの後悔と最後  
訊問と磔刑  
鞭打ち  
十字架への道  
十字架上のイエス  
イエスの死  
埋葬  
哀悼と安息

第30曲 ~ 第37曲  
第38曲 ~ 第40曲  
第41曲 ~ 第43曲  
第44曲 ~ 第50曲  
第51曲 ~ 第54曲  
第55曲 ~ 第57曲  
第58曲 ~ 第60曲  
第61曲 ~ 第63b曲  
第63c曲 ~ 第66曲  
第67曲 ~ 第68曲

古楽器使用、A=415Hz

指揮 辻 秀幸

福音史家 大島 博

イエス 小原 浄二

ピラト 田代 和久

管弦楽 Millennium Bach Ensemble

声楽 Ensemble14

ペテロ  
大祭司  
証人  
女中  
祭司

林 秀博  
中西 隆紀  
広瀬 由紀子  
室橋 明美  
木下 剛

ユダ  
ピラトの妻  
証人  
女中  
祭司

小泉 孝博  
子井野 真貴子  
江端 員好  
青瀧 憲子  
武内 崇史

リピエーノ  
(第1曲)

青瀧 憲子、岩倉 ひろみ、中神 康一、北郷 博美

第5曲  
第8曲  
第13曲  
第20曲  
第23曲  
第30曲  
第35曲  
第42曲  
第49曲  
第52曲  
第57曲  
第60曲  
第65曲

重野 真奈美  
子井野 真貴子  
北郷 博美  
内藤 秀司  
菅野 松佐登  
湊 佳代  
羽田 耕太朗  
小泉 孝博  
室橋 明美  
崎谷 芳恵  
木下 剛  
重野 真奈美  
三浦 貴博

第6曲  
第12曲  
第19曲  
第22曲  
第27a曲  
第34曲  
第39曲  
第48曲  
第51曲  
第56曲  
第59曲  
第64曲  
第67曲

柿原 紀子  
長澤 いぶき  
中西 隆紀  
武内 崇史  
崎谷 芳恵、林田 素子  
江端 員好  
林田 素子  
木藤 裕子  
柿原 紀子  
林 秀博  
柿原 紀子  
武内 崇史  
小林 総子、広瀬 由紀子  
江端 員好、三浦 貴博

## 楽曲解説

マタイ受難曲は、正式には「マタイによる福音書に基づく我が主イエス・キリストの受難」であり、ヨハネ受難曲、口短調ミサ曲、クリスマスオラトリオと並んで、バッハの4大宗教曲として知られている。作曲は、バッハがライプツィヒの聖トーマス教会のカントレ（音楽監督）だった時期といわれ、1727年の聖金曜日（復活祭の直前の金曜日）の午後の礼拝において、バッハの手により説教の最後に演奏されたものと言われている。（1729年とい説もあるが、1727年とするリフキンの説が最近では有力となっている。）

マタイ受難曲は、大きく2部から構成されており、第1部は受難の預言から始まり、最後の晩餐を経てイエスの捕縛までを、第2部は、審判から磔刑、イエスの死そして安息までを題材としている。構成は、ソリストおよびそれぞれ2部からなるオーケストラと合唱で構成される。第1合唱はシオンの娘達を、第2合唱はエルサレムの娘達（個々の信徒）を表しており、場面に応じて交唱する。受難曲の詩は聖書の詩句（福音）と自由詩、および賛美歌（コラール）からなる。聖書の詩句はマタイ福音書の第26-27章からとられたもので、主として福音記者（エヴァンゲリスト）により朗唱される。イエスの言葉はバスの独唱者により、ひととき美しいヴァイオリンとヴィオラの弦楽合奏の和声（神の光背を象徴しているとされる）を伴って朗唱されるのが印象的である。自由詩は、主としてライプツィヒの詩人ピカンダーによるもので、合唱およびアリアとして作曲され、ある時は劇的に、ある時は省察的に表現される。コラールは、ルター派福音教会の賛美歌であり、会衆（信者）としての合唱により歌われる。コラールには9種類の旋律がかわるがわる登場する。スケール構成とも当時としては極めて大きなものであり、受難曲の最高傑作の一つとして称えられる所以でもある。

この受難曲において描かれている出来事はおよそ2000年の昔、花咲きほころぶ頃のほんの数日間の出来事である。しかし、その短い間に突に多くの思惑と感情がめまぐるしく交錯し、それが2000年の時を経てなお、多くの人々の心のよりどころとなる信仰の源泉となっている。

以下、受難曲の構成について解説させていただく。

### 第1部

#### 1.冒頭合唱 ゴルゴタへの道行

来たれ娘達よ…」

第1曲はこの作品全体の基本的な思想を歌い上げる壮大な二重合唱曲である。キリストのそして人類の苦悩を象徴するようなオーケストラの音楽にのって、

来たれ、汝ら娘たち、我が嘆くを助けよ、見よ」（シオンの娘）  
- 誰を」（会衆）  
その花婿を」（シオンの娘）…

と2つの合唱団によって歌われる。

この対話から芽生えた信仰告白としてソプラノリピーターによって歌われる「神の子羊は罪も無く…」はミサ曲通常文のラテン語「アニュスデイ」のドイツ語訳である。

#### 2.受難の預言と大祭司たちの謀議（第2～4曲）

「（イエス）人の子は十字架につけられ…」  
「大祭司」計略もてイエスを捕らえ、かつ殺さん…」

イエスは弟子達に対し、自らの十字架上での死を預言する。一方で大祭司、律法学者達は、イエスの謀殺を図るのであるが、折しもユダヤの最も重要な祭礼である過越祭であったため、これを避けるべく謀議している場面である。この場面にフルートにあえて軽薄な音を当てて落ち着きのない様子を表現している。

#### 3.香油を注いだベタニヤの女（第4～6曲）

弟子達は愚かにもとがめます…  
我が涙のしず香水となりて御身に注がん…」

ベタニヤの重い皮膚病を患ったシモンの家に行った時一人の女が香油をイエスに注ぐが、弟子達はなぜ無駄遣いをするのかととがめる。この場面はイエスの死を察するもの（ベタニヤの女 過去に罪を犯したものがその罪（原罪）を負って十字架の死に向かおうとするイエスを送り出すとい象徴的な場面である。この場面をアルトのアリアがやさしくも悲嘆の情を含めつつ歌い上げる。

#### 4.ユダの裏切り(第7~8曲)

「ユダ）われは彼を汝らに売らん。…」

香油を注ぐといふ行為を理解できない弟子達のうちユダがイエスを裏切ることになる。大祭司にイエスを銀貨 30 枚で売渡ししたのである。この場面をソプラノのアリアが力強くも痛切な主題とすすり泣くような嘆息をもつ合奏にのって 血を流せ いとしい御心」と歌う。中間部では「あなたが育てた子…」と歌う一方ユダを「その子は蛇となった…」と例え、不気味なうねりの通奏低音を当てて表現している。

#### 5.最後の晩餐(第9~13曲)

「(イエス)これは私の体の一部である…  
これは新しい契約を立てる私の血である…」

過越しの食事をとる為に場所を探す弟子達の合唱の後、いわゆる最後の晩餐において、イエスは、弟子達に「裏切り者」がいることを告げる。弟子達の動揺と共にコラールが流れる。コラールの旋律は 15 世紀の作曲家ハインリヒ・イザークの「インスブルックよさようなら」であり、受難曲中で何度か繰り返し使われる。晩餐が進み、イエスは、パンを裂き、ぶどう酒を注いで、弟子達に分け与え、新しい救いの契約をたてる。イエス役のパソソロが荘厳な弦楽奏と共に高らかに歌い、深い感銘を与える。

#### 6.オリーブ山にて(第14~17曲)

「(イエス)あなたがたは散り散りになるだろう…  
わたしが復活したときは…」

オリーブ山への登高を象徴する通奏低音に伴い、一同は歩みを進める。そして、イエスは弟子達に対し来たる受難に際して弟子達が離散することを告げると共に、自らの復活の預言を与える。続いて有名な受難コラールが流れる。コラールの内容は、パウエル・ゲールハルト作の受難節コラールであり、旋律はハンス・レオハスラーの歌曲「わが心は千々に乱れ」による。離散の預言に対してペテロは強く否定するが、イエスは「鶏が鳴く前にあなたは3度私を知らないというだろう」と否認の預言を与えるのだった。

#### 7.ゲッセマネの苦悩(第18~25曲)

「(イエス)私の魂は憂いのあまり死ぬほどである…」

ゲッセマネの園でイエスは、祈りをささげつつ、おのれを襲う恐怖と戦っていたが、付き従う弟子達はその間に眠りこけてしまい、イエスの叱責を受ける。この場面を受けてテノールのアリアと合唱がひしひしと聴く者に訴えかけるのである。再度祈りをささげたイエスは「神の御心のままに」と死を受け入れる決心をする。

#### 8.捕縛(第26~29曲)

「(ユダ)私が口付けした人がイエス…」  
「・業火の淵を開け、おお地獄よ…」  
「(コラール)おお人よ、その罪の大なるを嘆くがよい…」

捕吏の一行を手引きして来たユダの合図の口付けによって、イエスは捕らえられてしまう。この直後、シオンの娘の哀願を表す切々たる二重唱の後、天地を挙げての憤怒の合唱が歌われる。そして、捕まったイエスを一人残して逃げ去ってしまった 11 人の弟子達に訴えかけるかのように長大なコラールが登場し、「われらの罪」を負うべく十字架の受難を受け入れたキリストの生涯を総括する。

## 第2部

### 9. イエスを探すシオンの娘と同情するエルサレムの娘、大祭司の審問 (第30~37曲)

「ああ私のイエスが行ってしまわれた…」

アルトの悲痛な歌声に、「どこにいったの?…」とエルサレムの娘(会衆)が答える。これに導かれ場面は、大祭司の館でのイエスの訊問に移る。不実な証言にもイエスは耐え、「迫害の中で沈黙を保とうではないか」のレチタティーヴォに導かれ、テノールの「耐え忍ぼう」のアリアが続く。そしてついに「この男は死に値する」と断じられる。群衆はイエスに唾を吐きかけ、こぶしで殴りつけたあげく「誰が殴ったか当ててみる」とサディスティックな快感に浸るかのようなリズム的な旋律を伴い、イエスをなじるのであった。

### 10. ペテロの否認と後悔 (第38~40曲)

「(ペテロ:イエスを見て)そんな人は知らない! …外へ出て激しく泣いた」

ペテロは、イエスを追ってきたが、イエスの一味では無いかと問い詰められ、「そんな人は知らない!」と否定してしまう。そして3度目の否定の後鶏が鳴いた。かつてイエスに「鶏が鳴く前にお前は3度私を知らないというだろう」といわれた事を思い出し、激しく泣いた。この直後この嘆きを表すアルトのアリアが痛切な旋律のヴァイオリンのオブリガートを伴って歌われる「憐れみください…」その後、信仰に目覚め、殉教したペテロの顔には深い涙の筋があったと伝えられている。アリアの後、包み込むようなコラールが、恵みと愛を歌う

### 11. ユダの後悔と最後 (第41~43曲)

「(ユダ)私は罪無き人の血を売ってしまった…」

ユダはイエスを裏切った事を後悔し、大祭司たちに金を返しに行くが、相手にされず、神殿に銀貨を投げ込んだ後首をつって自殺した。この場面をバスのアリアが「イエスを返せ」と歌いあげる。この際のヴァイオリンのオブリガートは、ユダが投げつけた銀貨が神殿を転がる様を示していると解釈されている。

### 12. 訊問と磔刑 (第44~50曲)

「(ピラト)汝ら誰を救わせんと願うか?バラバか?  
それともイエスか? …(群衆)バラバを放せ」  
「(ピラト)イエスはいかに処すべきか …(群衆)十字架につぐべし…」

ローマ総督ピラトはイエスを訊問するが、どうしても罪を見出せない。しかし、群衆はイエスの処刑を求めて押し寄せており、ピラトは恩赦を利用して、盗賊バラバ(革命党の指導者だったとの説もある)か、イエスのどちらかを恩赦により釈放しようとした。しかし、大祭司達に説得され、群衆は「バラバを釈放せよ」と叫ぶ。そしてイエスには「十字架につけよ!」とその死を望んだのであった。これを「なんと驚くべき刑だろう」とコラールが歌い、「愛とは何か」をテーマにソプラノのアリアが続く。

### 13. 鞭打ち (第51~54曲)

「バラバを釈放し、イエスを鞭打たせ ……」  
「(コラール)ああ、血と傷にまみれし御首 ……」

処刑が決まったイエスは鞭打たれ、血まみれとなったこのシーンをアルトのレチタティーヴォが鮮明に記述している。弦の動きは鞭打ちそのものである。悲痛なコラールがこれにつづき、イエスの惨状を嘆く。

#### 14.十字架への道 (第55～57曲)

来たれ、甘き十字架 …」

刑場へ向かうイエス。たまたまそこに居合わせたキレネの人シモンがイエスの十字架を背負うことになった。続いて、バスのレチタティーヴォが十字架を背負わされたシモンを示す。続くバスのアリアは、この情景をヴィオラ・ダ・ガンバの伴奏を伴い、苦悩と期待、苦さと甘さの交錯する複雑な情感を表現している。

#### 15.十字架上のイエス (第58～60曲)

神の子ならば十字架よ！降り来たれ …」  
ああ ゴルゴダよ、禍なるゴルゴダよ …」

十字架につけられたイエスを群衆はののしってやまない。狂気とも、ある種軽薄とも取れるリズムを伴いその情景が表現されていく。そんな中、シオンの娘に映ったイエスは腕を広げてわれを向かい入れんとするように見えたのだらう。そんな情景がアルトのアリアにより歌われる。

#### 16.イエスの死 (第61～63曲)

「(イエス)わが神よ、なぜ、私をお見捨てになったのです？ …」  
「(コラール)いつの日かわれ去！逝くとき …」

今や、イエスはその最後の時を迎えんとし、「わが神よ、なぜ、私をお見捨てになったのです？」と叫ぶ。これは、絶望の言葉にも受け取れるが、これにつづく詩篇の言葉から、「神への賛辞」のことばであると解釈されることが多い。そしてさらに一言叫ぶとイエスは絶命した。厳粛なコラールがこれに続く。

#### 17.埋葬 (第63～66曲)

そのみ体は、は安息に入る …」

イエスの死の直後、天変地異がおこり、百卒長達は、「本当にこの方は神の子であったのだ」と確信する。激しい弦の動きと峻烈な福音記者の語り、その緊張感の後の安らかな神々しい和音がこの場面を象徴している。時は夕暮れ、バスのレチタティーヴォが静かにその情景を語り、清冽な気に満ち溢れたバスのアリア「我が心よ、おのれを清めよ」が歌われる。イエスが死んだ後も、大祭司達は「イエスが復活した」と弟子達が煽動する事を恐れて、イエスの遺体を封印する事をピラトに願い出る。

#### 18.哀悼と安息 (第67～68曲)

安らかに憩いたまえ …」

イエスの墓前で独唱者が控えめながらもそれぞれに深い思いを込め別れを告げ、その思いを合唱が「私のイエスよ、おやすみなさい」とやさしく受け止める。八短調へと調性に移る印象的なコーダにより、終曲が導かれる。終曲はこの受難物語の締めくくりであり、重厚かつ壮重な主部 *ruhe sanfte, sanfte ruh* (憩いたまえ安らかに、安らかに憩いたまえ)と歌い、中間部ではキリストの死の現実を改めて表現し、(この上なく満ち足りて、目を閉じまどろみたまえ)で表現がその頂点に達する。見事な三重エコーを構成している。そして再度主部が再現され、第1合唱(シオンの娘)、第2合唱(エルサレムの娘)と共に *ruhe sanfte, sanfte ruh* (憩いたまえ安らかに、安らかに憩いたまえ)と歌い、この受難に続く復活と人類の救済の予兆としての長調を垣間見せながらも、最後は八短調の和音により、締めくくられる。

## 第1部

ご注意：  
演奏中は静かにページをおめくりください。

### ゴルゴタへの道行

#### Nr.1 CHORUS

Kommt, ihr Töchter,  
helft mir klagen,  
Sehet

Wen?

den Bräutigam,  
Seht ihn

Wie?

als wie ein Lamm!

#### Choral

*O Lamm Gottes, unschuldig  
Am Stamm des Kreuzes geschlachtet,*

Sehet

Wen?

den Bräutigam,  
Seht ihn

Wie?

als wie ein Lamm.  
Sehet,

Was?

seht die Geduld,

#### Choral

*Allzeit erfunden geduldig,  
Wiewohl du warest verachtet.*

Seht,

Wohin?

auf unsre Schuld;

#### Choral

*All Sünd hast du getragen,  
Sonst müßten wir verzagen.*

Sehet ihn aus Lieb und Huld  
Holz zum Kreuze selber tragen!

#### Choral

*Erbarm dich unser, o Jesu!*

#### 1. 合唱

来なさい、娘たち、<sup>(1)</sup>  
私と共に嘆くのです。  
見なさい、

誰を?

花婿を、<sup>(1)</sup>  
見なさい、彼を、

どのような?

子羊のごときを!

#### コラール

おお、<sup>(1)</sup> 咎なき神の子羊よ、  
十字架の上でふられました、

見なさい、

誰を?

花婿を、  
見なさい、彼を、

どのような?

子羊のごときを、  
見なさい、

何を?

見なさい、この忍耐を、

#### コラール

あなたは、いかなる時も耐え忍ばれました、  
いかに蔑まれても、

見なさい、

どこを?

私たちの罪を、

#### コラール

あなたは、私たちの全ての罪を引き受けてくださいました、  
さもなければ私たちは救われず、  
絶望するほかありませんでした。

見なさい、彼を、愛と恩寵の心のゆえに、  
十字架を自ら背負っておられるお姿を!

#### コラール

私たちが憐れんでください、おお、イエスよ!

(1) 花婿はキリスト、娘たちはキリストを信じる者たちのこと。

### 受難の預言と大祭司たちの謀議

#### Nr.2 RECITATIVO

Evangelista:

Da Jesus diese Rede vollendet hatte,  
sprach er zu seinen Jüngern:

Jesus:

Ihr wisset, daß nach zweien Tagen Ostern wird, und des  
Menschen Sohn wird überantwortet werden,  
daß er gekreuziget werde.

#### 2. レチタティーヴォ

福音史家

さて、イエスはこれらの言葉を全て語り終えると、  
自分の弟子たちに言われた。

イエス

「おまえたちが知ってのとおり二日の後は<sup>(2)</sup>過越祭である。  
そして、人の子は引き渡されるであろう  
十字架にかけられるために。」

(2) ユダヤ教三大祭の一つで、子羊をほふり、その血を家の門に塗ることによりイスラエルの民たちが禍を過ぎ越し、神によりエジプトから救い出された故事を祝うもの。  
また、イエスは、この祭の時に罪なくして十字架につけられた、いわば過越の子羊であり、そのことによりキリストを信じる者たちは罪を免れ、神の裁きから救われる、とされる。

Nr.3 CHORAL

Herzliebster Jesu, was hast du verbrochen,  
Daß man ein solch scharf Urteil hat gesprochen?  
Was ist die Schuld?  
In was für Missetaten  
Bist du geraten?

3. コラール

心よ!愛するイエスよ、何の悪事を犯したのですか?  
それほどに厳しい裁きを宣告されるとは。  
あなたの咎は何ですか?  
何の悪行ゆえに  
あなたは裁かれることになったのでしょうか?

Nr.4a RECITATIVO

Evangelista:  
Da versammelten sich die Hohenpriester und Schriftgelehrten  
und die Ältesten im Volk in den Palast des Hohenpriesters, der  
da hieß Kaiphas, und hielten Rat, wie sie Jesum mit Listen  
griffen und töteten.  
Sie sprachen aber:

4a. レチタティーヴォ

福音史家  
その時、大祭司たちと 律法学者たち、そして民の長老たちは  
カイアファという大祭司の屋敷の中庭に集まり 策略をもって  
イエスを捕らえ、そして殺そうと相談した。  
  
しかし、彼は言った。

Nr. 4b CHOR

Ja nicht auf das Fest,  
auf daß nicht ein Aufruhr werde im Volk.

4b. 合唱

祭の期間中はダメだ。  
民衆の間に暴動が起こってはまずい。」

香油を注いだベタニヤの女

---

Nr.4c RECITATIVO

Evangelista:  
Da nun Jesus war zu Bethanien, im Hause Simonis des  
Aussätzigen, trat zu ihm ein Weib, die hatte ein Glas mit  
köstlichem Wasser  
und goß es auf sein Haupt, da er zu Tische saß.  
Da das seine Jünger sahen, wurden sie unwillig und sprachen:

4c. レチタティーヴォ

福音史家  
さて、イエスがベタニアにある、重い皮膚病の人であるシモンの上に  
居られた時、一人の女が、きわめて高価な香油の入った石膏の壺を  
持ってイエスに近寄り イエスの頭に注ぎかけた。イエスが食事の席  
にお着きの時であった。  
するとイエスの弟子たちは、これを見て、腹を立てて言った。

Nr. 4d CHOR

Wozu dienet dieser Unrat?  
Dieses Wasser hätte mögen teuer verkauft  
und den Armen gegeben werden.

4d. 合唱

「こんな無駄遣いが何の役に立つのか?  
この香油を高く売って  
貧しい人たちに施しをすれば良かったのに。」

Nr.4e RECITATIVO

Evangelista:  
Da das Jesus merketete, sprach er zu ihnen:  
  
Jesus:  
Was bekümmert ihr das Weib?  
Sie hat ein gut Werk an mir getan.  
Ihr habet allezeit Armen bei euch,  
mich aber habt ihr nicht allezeit.  
Daß sie dies Wasser hat auf meinen Leib gegossen,  
hat sie getan, daß man mich begraben wird.  
Wahrlich, ich sage euch:  
Wo dies Evangelium geprediget wird in der ganzen Welt,  
da wird man auch sagen zu ihrem Gedächtnis, was sie getan hat.

4e. レチタティーヴォ

福音史家  
イエスはそれに気づくと、弟子たちに言われた。  
  
イエス  
なぜ、この女を困らせるのか?  
この女は私に良いことをしてくれたのだ。  
おまえたちは、いつも貧しい人々と一緒に居るが、  
私はいつもおまえたちと居るわけではない。  
この女がこの香油を私の体に注いだのは、  
私が葬られる準備をしてくれたのだ。  
よくよく、おまえたちに言うておくが、  
世界中のどこでも、この福音が宣べ伝えられる所では、  
この女のしたことも記念として語り伝えられるであろう。」

Nr. 5 RECITATIVO

Du lieber Heiland du,  
 Wenn deine Jünger töricht streiten,  
 Daß dieses fromme Weib  
 Mit Salben deinen Leib  
 Zum Grabe will bereiten,  
 So lasse mir inzwischen zu,  
 Von meiner Augen Tränenflüssen  
 Ein Wasser auf dein Haupt zu gießen!

5. レチタティーヴォ

愛する救い主、イエスよ  
 あなたの弟子たちは愚かにも責めました、  
 この信仰の厚い女性が  
 香油をあなたの体に塗って  
 埋葬する準備をしたことを  
 でも、私にはお許しください、  
 私の眼から溢れ出る  
 涙の一滴をあなたの頭に注ぐことを。

Nr.6 ARIA

Buß und Reu  
 Knirscht das Sündenherz entzwei,  
 Daß die Tropfen meiner Zähren  
 Angenehme Spezerei,  
 Treuer Jesu, dir gebären.

6. アリア

犯した罪を思うとき  
 私の罪深い心は断ち裂かれるのです。  
 あふれる涙のしずくが  
 安らかな香水となり  
 まことであるイエスよ、あなたに注がれますよう。

ユダの裏切り

---

Nr.7 RECITATIVO

Evangelista:  
 Da ging hin der Zwölfen einer, mit Namen Judas Ischarioth, zu  
 den Hohenpriestern und sprach:  
 Judas:  
 Was wollt ihr mir geben?  
 Ich will ihn euch verraten.  
 Evangelista:  
 Und sie boten ihm dreißig Silberlinge.  
 Und von dem an suchte er Gelegenheit,  
 daß er ihn verriete.

7. レチタティーヴォ

福音史家  
 そのうち、十二人の弟子の一人で、イスカリオテのユダとい名の者が、大祭司たちのところへ行き、そして言った。  
 ユダ  
 「あなたがたは何を私にしてくれるのですか？  
 私がイエスを裏切ったとしたら。」  
 福音史家  
 すると彼らは、銀貨三十枚を支払った。  
 この時から、ユダはイエスを裏切り  
 彼らに引き渡す機会を狙っていた。

Nr.8 ARIA

Blute nur, du liebes Herz!  
 Ach! ein Kind, das du erzogen,  
 Das an deiner Brust gesogen,  
 Droht den Pfleger zu ermorden,  
 Denn es ist zur Schlange worden.

8. アリア

ただ血を流すのみなのです、愛しい心は。  
 ああ、あなたが育て、  
 あなたの胸で乳を吸った子は、  
 今にも育ての親を殺そうとしています。  
 その子は蛇になってしまったのですから。

最後の晩餐

---

Nr.9a RECITATIVO

Evangelista:  
 Aber am ersten Tage der süßen Brot traten die Jünger zu Jesu  
 und sprachen zu ihm:

9a. レチタティーヴォ

福音史家  
 さて、除酵祭<sup>(\*)</sup>の第一日目に、弟子たちがイエスのところへ来て、そ  
 して彼に言った。

(\*) 過越祭に続いて守られるユダヤ教の祭日。  
 当時の故事に倣って、パン種を入れぬパンを作ったことから  
 この名称で呼ばれた。

Nr.9b CHOR

Wo willst du, daß wir dir bereiten,  
 das Osterlamm zu essen?

9b. 合唱

過越のお食事は、  
 どちらにご用意すればよろしいでしょうか？」

Nr.9c RECITATIVO

Evangelista:  
Er sprach:

Jesus:  
Gehet hin in die Stadt zu einem und sprecht zu ihm:  
Der Meister läßt dir sagen:  
Meine Zeit ist hier, ich will bei dir die Ostern halten mit  
meinen Jüngern.

Evangelista:  
Und die Jünger taten, wie ihnen Jesus befohlen hatte,  
und bereiteten das Osterlamm.  
Und am Abend setzte er sich zu Tische mit den Zwölfen.  
Und da sie aßen, sprach er:

Jesus:  
Wahrlich, ich sage euch:  
Einer unter euch wird mich verraten.

Nr. 9d RECITATIVO

Evangelista:  
Und sie wurden sehr betrübt und huben an,  
ein jeglicher unter ihnen, und sagten zu ihm:

Nr.9e CHOR

Herr, bin ichs?

Nr.10 CHORAL

Ich bins, ich sollte büßen,  
An Händen und an Füßen  
Gebunden in der Höll.  
Die Geißeln und die Banden  
Und was du ausgestanden,  
Das hat verdienet meine Seel.

Nr.11 RECITATIVO

Evangelista:  
Er antwortete und sprach:

Jesus:  
Der mit der Hand mit mir in die Schüssel tauchet,  
der wird mich verraten.  
Des Menschen Sohn gehet zwar dahin,  
wie von ihm geschrieben stehet;  
doch wehe dem Menschen,  
durch welchen des Menschen Sohn verraten wird!  
Es wäre ihm besser,  
daß derselbige Mensch noch nie geboren wäre.

9c. レチタティーヴォ

福音史家  
イエスは言われた。

イエス  
郢<sup>(4)</sup>の(以前話をしてあった)あの人の所に行って、  
こう言いなさい。  
先生があなたにこう申すように言いました。私の時が近づいた。  
私はあなたの所で弟子たちと一緒に過越の食事をやりたいと。」

(4) エルサレムのこと

福音史家  
そして弟子たちはイエスが命じたとおりにして、  
過越の食事を準備した。  
そして夕方には、イエスは十二人と一緒に食事の席に着かれた。  
そして彼らが食事をしているとき、イエスは言われた。

イエス  
「よくよく、おまえたちに言っておく  
おまえたちの中の一人が私を裏切ろうとしている。」

9d. レチタティーヴォ

福音史家  
すると弟子たちはとても悲しんで、誰もが代わる代わる  
イエスに尋ねた。

9e. 合唱

「主よ、それは私ですか?」

10. コラール

私です、私こそが罪を償うべきなのです、  
両手と両足を  
地獄に繋がれて。  
鞭打ち、鉄の枷、  
あなたが耐えた数々の受難、  
それは、私の魂にこそ相応しい報いなのです。

11. レチタティーヴォ

福音史家  
イエスは答えて言われた。

イエス  
「私と一緒に鉢の中に(食べ物を持った)手を浸した者、  
その者が私を裏切るのだ。  
人の子は、確かにこの世から去っていく、  
聖書<sup>(5)</sup>に書かれているとおりに。  
だが不幸な者だ、  
人の子を裏切ろうとしている、その者は!  
その者にとっては、  
生まれて来ない方が良かったらうことだ。」

(5) 旧約聖書のこと

Evangelista:  
Da antwortete Judas, der ihn verriet, und sprach:

Judas:  
Bin ichs, Rabbi?

Evangelista:  
Er sprach zu ihm:

Jesus:  
Du sagests.

Evangelista:  
Da sie aber aßen, nahm Jesus das Brot, dankete und brachs,  
und gabs den Jüngern und sprach:

Jesus:  
Nehmet, esset, das ist mein Leib.

Evangelista:  
Und er nahm den Kelch und dankete,  
gab ihnen den und sprach:

Jesus:  
Trinket alle daraus; das ist mein Blut des neuen Testaments,  
welches vergossen wird für viele zur Vergebung der Sünden.  
Ich sage euch:  
Ich werde von nun an nicht mehr von diesem Gewächs des  
Weinstocks trinken bis an den Tag, da ichs neu trinken werde  
mit euch in meines Vaters Reich.

福音史家  
その時、イエスを裏切ろうとしていたユダが、答えて言った。

ユダ  
「まさか、私のことですか、先生？」

福音史家  
イエスは彼に言われた。

イエス  
「それはおまえの言ったことだ。(そのとおりだ。の意味)」

福音史家  
一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、  
それを手で裂き、弟子たちに分け与えながら言われた。

イエス  
「取って食べなさい。これは私の体である。」

福音史家  
そして杯を取り、感謝の祈りを唱えて、  
彼らに分け与えて言われた。

イエス  
「皆、この杯から飲みなさい。これは罪が赦されるように、多くの人の  
ために流される私の血、新しい契約のために流される私の血であ  
る。  
おまえたちに言うておく  
私は今からは、ぶどうの木から出来たものを飲むことは、  
決してあるまい。  
私の父の国<sup>(6)</sup>で、新たにおまえたちと一緒に飲む、その日まで。」

(6) 神の国のこと

#### Nr.12 RECITATIVO

Wiewohl mein Herz in Tränen schwimmt,  
Daß Jesus von mir Abschied nimmt,  
So macht mich doch sein Testament erfreut:  
Sein Fleisch und Blut, o Kostbarkeit,  
Vermacht er mir in meine Hände.  
Wie er es auf der Welt mit denen Seinen  
Nicht böse können meinen,  
So liebt er sie bis an das Ende.

#### Nr.13 ARIA

Ich will dir mein Herze schenken,  
Senke dich, mein Heil, hinein!  
Ich will mich in dir versenken;  
Ist dir gleich die Welt zu klein,  
Ei, so sollst du mir allein  
Mehr als Welt und Himmel sein.

#### 12. レチタティーヴォ

私の心は涙の中を漂っています、  
イエスが私に別れの挨拶をなさるので、  
しかし、彼の契約は私を喜ばせません。  
ご自分の肉と血、おお、なんと尊いものを  
イエスは私の手に遺してくださったのでしょうか。  
彼は、世に在るときに彼に従う者たちに  
なんの不信をも抱くこと無く、  
その者たちを世の終わりまで愛してください。

#### 13. アリア

私の心をあなたにささげます。  
心の奥にともってください、私の救い主よ。  
私はあなたのうちに私をゆだねます。  
あなたにとってこの世界はどんなに小さいものなのでしょう。  
ああ、ですから私はあなただけを  
地より先、天より先、頼りにするのです。

### オリブ山にて

---

#### Nr.14 RECITATIVO

Evangelista:  
Und da sie den Lobgesang gesprochen hatten,  
gingen sie hinaus an den Ölberg.  
Da sprach Jesus zu ihnen:

#### 14. レチタティーヴォ

福音史家  
そして、一同は讚美の歌を捧げてから  
オリブ山へ出かけた。  
そのときイエスは弟子たちに言われた。

Jesus:

In dieser Nacht werdet ihr euch alle ärgern an mir.  
Denn es stehet geschrieben:  
Ich werde den Hirten schlagen,  
und die Schafe der Herde werden sich zerstreuen.  
Wenn ich aber auferstehe, will ich vor euch hingehen  
in Galiläam.

Nr.15 CHORAL

Erkenne mich, mein Hüter,  
Mein Hirte, nimm mich an!  
Von dir, Quell aller Güter,  
Ist mir viel Guts getan.  
Dein Mund hat mich gelabet  
Mit Milch und süßer Kost,  
Dein Geist hat mich begabet  
Mit mancher Himmelslust.

Nr.16 RECITATIVO

Evangelista:

Petrus aber antwortete und sprach zu ihm:

Petrus:

Wenn sie auch alle sich an dir ärgerten,  
so will ich doch mich nimmermehr ärgern.

Evangelista:

Jesus sprach zu ihm:

Jesus:

Wahrlich, ich sage dir: In dieser Nacht, ehe der Hahn krähet,  
wirst du mich dreimal verleugnen.

Evangelista:

Petrus sprach zu ihm:

Petrus:

Und wenn ich mit dir sterben müßte,  
so will ich dich nicht verleugnen.

Evangelista:

Desgleichen sagten auch alle Jünger.

Nr.17 CHORAL

Ich will hier bei dir stehen;  
Verachte mich doch nicht!  
Von dir will ich nicht gehen,  
Wenn dir dein Herze bricht.  
Wenn dein Herz wird erblassen  
Im letzten Todesstoß,  
Alsdenn will ich dich fassen  
In meinen Arm und Schoß.

ゲッセマネの苦悩

Nr.18 RECITATIVO

Evangelista:

Da kam Jesus mit ihnen zu einem Hofe, der hieß Gethsemane,  
und sprach zu seinen Jüngern:

イエス

今夜、おまえたちは皆、私から離れ去って行くであろう  
それは聖書にこう書いてあるからだ。  
私は羊飼いを打つ。  
そうすると羊の群れは散ってしまうであろう」  
だが、私が復活した時、私はおまえたちより先にガリラヤに  
行くであろう」

15. コラール

私を見つけてください、わが守り手よ  
わが主よ、私を導いてください！  
全ての善の源であるあなたより  
私は、たくさんの善き物を授かりました。  
あなたの御言葉は、乳と甘き糧となって  
私を元気付け、  
あなたの聖霊は、たくさんの天の愉悦を  
私にもたらしてくださいました。

16. レチタティーヴォ

福音史家

すると、ペテロはイエスに答えて言った。

ペテロ

たとえ、みんながあなたから離れ去っても  
私は決してあなたから離れません。」

福音史家

イエスは彼に言われた。

イエス

「よくおまえに言っておくが、今夜、鶏が鳴く前に、  
おまえは三度、私のことを知らない」と否定するだろう」

福音史家

ペテロはイエスに言った。

ペテロ

そして、たとえあなたと一緒に死ななければならぬことになった  
としても、私はあなたのことを知らないなどと決して言いません。」

福音史家

すべての弟子たちも皆、同じことを言った。

17. コラール

私はあなたの御許に留まります。  
どうか私を見捨てないでください。  
私はあなたの御許より離れません。  
あなたの心臓が裂けようという時も、  
あなたが心臓への最後の一突きに  
息をひきとる時、  
私はあなたを抱きとめましょう  
私の懐に。

18. レチタティーヴォ

福音史家

さて、イエスは弟子たちと一緒にゲッセマネという所に行かれて、  
そして彼の弟子たちに言われた。

Jesus:  
Setzet euch hie, bis daß ich dort hingehge und bete.

Evangelista:  
Und nahm zu sich Petrum und die zween Söhne Zebedäi  
und fing an zu trauern und zu zagen.  
Da sprach Jesus zu ihnen:

Jesus:  
Meine Seele ist betrübt bis an den Tod,  
bleibet hie und wachet mit mir!

Nr.19 RECITATIVO & CHORAL

Solo:  
O Schmerz!  
hier zittert das gequälte Herz;  
Wie sinkt es hin,  
wie bleicht sein Angesicht!

*Choral*  
*Was ist die Ursach aller solcher Plagen?*

Solo:  
Der Richter führt ihn vor Gericht.  
Da ist kein Trost, kein Helfer nicht.

*Choral*  
*Ach! meine Sünden haben dich geschlagen;*

Solo:  
Er leidet alle Höllenqualen,  
Er soll vor fremden Raub bezahlen.

*Choral*  
*ich, ach Herr Jesu, habe dies verschuldet,*  
*Was du erduldet.*

Solo:  
Ach! könnte meine Liebe dir, mein Heil,  
dein Zittern und dein Zagen  
Vermindern oder helfen tragen,  
Wie gerne blieb ich hier!

Nr.20 ARIA & CHOR

Solo:  
Ich will bei meinem Jesu wachen.

*Chor*  
*So schlafen unsre Sünden ein.*

Solo:  
Meinen Tod büßet seine Seelennot;  
Sein Trauren machet mich voll Freuden.

*Chor*  
*Drum muß uns sein verdienstlich Leiden*  
*Recht bitter und doch süße sein.*

イエス  
「ここに座ってなさい、私が向こうへ行つて祈っている間は。」

福音史家  
そして、ペテロとゼベダイの二人の息子を連れて行つたが、  
そこで深く悲しみ、おののき始められた。  
そしてイエスは彼らに言われた。

イエス  
私の魂は死ぬほどに悲しい、  
ここに居て、私と一緒に目を覚ましてなさい！」

19 レチタティーヴォ と コラル

独唱  
ああ 痛ましい!!  
苦しめられた心はここで震えている。  
心がどれほど沈んでいき、  
その顔がどれほど青ざめていくことか!

*コラル*  
全てのこのような苦しみの要因は何ですか?

独唱  
裁きの長は彼を裁きの席の前に引き出した。  
そこには慰めも、助ける者も無い、

*コラル*  
ああ!私の罪ゆえに、あなたは打たれたのです。

独唱  
彼はあらゆる地獄の責め苦しみに耐え、  
彼は他人の盗み<sup>あがな</sup>を贖つてあろう

*コラル*  
私です、ああ、主イエスよ、私がその悪事を犯しました。  
それをあなたが耐え忍んでくださったのです。

独唱  
ああ、私の愛が、私の救い主よ、  
あなたの震えとおののきを  
和らげ、取り去つてお助けできるなら  
私はどんなに喜んでここに留まることか!

20. アリア と 合唱

独唱  
私はイエスのもとに目覚めていよう

*合唱*  
そうすれば私たちの罪は眼につくのです。

独唱  
私の死は彼の魂が受けた苦難が贖ってくれる  
そして、彼の悲嘆に私は喜び溢れよう

*合唱*  
誉れ高い彼の艱難は  
苦渋にも満ちて、なお甘美益れるものなのです。

Nr.21 RECITATIVO

Evangelista:

Und ging hin ein wenig, fiel nieder auf sein Angesicht und betete und sprach:

Jesus:

Mein Vater, ist's möglich, so gehe dieser Kelch von mir; doch nicht wie ich will, sondern wie du willst.

Nr.22 RECITATIVO

Der Heiland fällt vor seinem Vater nieder;  
Dadurch erhebt er mich und alle  
Von unserm Falle  
Hinauf zu Gottes Gnade wieder.  
Er ist bereit,  
Den Kelch, des Todes Bitterkeit zu trinken,  
In welchen Sünden dieser Welt  
Gegossen sind und häßlich stinken,  
Weil es dem lieben Gott gefällt.

Nr.23 ARIA

Gerne will ich mich bequemen,  
Kreuz und Becher anzunehmen,  
Trink ich doch dem Heiland nach.  
Denn sein Mund,  
Der mit Milch und Honig fließet,  
Hat den Grund  
Und des Leidens herbe Schmach  
Durch den ersten Trunk versüßet.

Nr. 24 RECITATIVO

Evangelista:

Und er kam zu seinen Jüngern und fand sie schlafend und sprach zu ihnen:

Jesus:

Könnet ihr denn nicht eine Stunde mit mir wachen?  
Wachet und betet, daß ihr nicht in Anfechtung fallt!  
Der Geist ist willig, aber das Fleisch ist schwach.

Evangelista:

Zum andernmal ging er hin, betete und sprach:

Jesus:

Mein Vater, ist's nicht möglich, daß dieser Kelch von mir gehe, ich trinke ihn denn, so geschehe dein Wille.

Nr.25 CHORAL

Was mein Gott will, das g'scheh allzeit,  
Sein Will, der ist der beste,  
Zu helfen den'er ist bereit,  
Die an ihn gläuben feste.  
Er hilft aus Not,  
Der fromme Gott,  
Und züchtiget mit Maßen.  
Wer Gott vertraut,  
Fest auf ihn baut,  
Den will er nicht verlassen.

21. レチタティーヴォ

福音史家

そして、少し進んで行って、低くうつぶせになって、祈って言われた。

イエス

わが父よ、できることなら、苦難と死の杯を私から過ぎ去らせてください。しかし私の望みどおりではなく、わが父の御心のままになさいますように。」

22. レチタティーヴォ

救い主は、その父の前にひれ伏され、  
それによって父は、私とすべての人々を、  
その墮落から  
神の恵みへとふたたび救い上げてくださる。  
主は心を決めて、  
その苦い死の杯を飲まれる。  
この世の罪がその中に  
注がれ、悪臭を放っている杯を、  
なぜなら、それが愛する神の意にかなうことなのだから

23. アリア

喜び抱き、苦き憂いに胸開こう  
十字架と杯を受け入れて、  
私は飲もう。そして主の御心に添おうではないか。  
なぜなら主の御口には  
乳と蜜が満ち滴り  
この濁世の源と  
辛い恥辱に  
口触れて、救いと癒しを注ぎ込まれたのだから

24. レチタティーヴォ

福音史家

それから、イエスは弟子たちの所へ戻られると、彼らが眠っているのを見て、彼らに言われた。

イエス

おまえたちはそのように、一時間ですら私と一緒に目を覚ましていらなかったのか？目を覚まして、祈っていなさい、誘惑に陥らないように。志はあっても、肉体は弱いものだ。」

福音史家

もう一度イエスは向こうに行き、祈って言われた。

イエス

わが父よ、私が飲まない限りこの杯が過ぎ去らないのでしたら、どうか、あなたの御心のままに行ってくださいますように。」

25. コラール

わが神の望まれることが、いつでも成されますように、  
神のご意志、それは最良のものなのだから  
神は信仰深い者には、  
常に救いの手を用意していらっしゃる。  
神は信仰厚い者を  
苦境から救い出し、  
そして適度に懲らしめもなさる。  
神を信じ、  
堅く依り頼む者を、  
神は見捨てられることはない

Nr.26 RECITATIVO

Evangelista:

Und er kam und fand sie aber schlafend, und ihre Augen waren voll Schlags.  
Und er ließ sie und ging abermal hin und betete zum drittenmal und redete dieselbigen Worte.  
Da kam er zu seinen Jüngern und sprach zu ihnen:

Jesus:

Ach! wollt ihr nun schlafen und ruhen?  
Siehe, die Stunde ist hie, daß des Menschen Sohn in der Sünder Hände überantwortet wird.  
Stehet auf, lasset uns gehen: siehe, er ist da, der mich verrät.

Evangelista:

Und als er noch redete, siehe, da kam Judas, der Zwölfen einer, und mit ihm eine große Schar mit Schwerten und mit Stangen von den Hohenpriestern und Ältesten des Volks.  
Und der Verräter hatte ihnen ein Zeichen gegeben und gesagt: "Welchen ich küssen werde, der ists, den greifet!"  
Und alsbald trat er zu Jesu und sprach:

Judas:

Gegrüßet seist du, Rabbi!

Evangelista:

Und küssete ihn. Jesus aber sprach zu ihm:

Jesus:

Mein Freund, warum bist du kommen?

Evangelista:

Da traten sie hinzu und legten die Hände an Jesum und griffen ihn.

Nr.27a ARIA & CHOR

Soli (Duet):

So ist mein Jesus nun gefangen.

*Chor*  
*Laßt ihn, haltet, bindet nicht!*

Soli (Duet):

Mond und Licht  
Ist vor Schmerzen untergangen,  
Weil mein Jesus ist gefangen.

*Chor*  
*Laßt ihn, haltet, bindet nicht!*

Soli (Duet):

Sie führen ihn, er ist gebunden.

26. レチタティーヴォ

福音史家

またイエスが戻られると、弟子たちがまた眠っているのをご覧になった。彼らは眠くてしかたがなかったのだった。そこでイエスは彼らをそのままにして離れ、また向こう行き、そして三度も同じ言葉で祈られた。それからイエスは弟子たちの所へ戻って来て、彼らに言われた。

イエス

「ああ！おまえたちはまだ眠っているのか、休んでいるのか？見よ、時が近づいた。人の子は罪人たちの手に引き渡される。立て、さあ行こう。見よ、私を裏切る者がすぐそこに居る。」

福音史家

そしてイエスがまだ話しておられると、見よ、十二人の弟子の一人、ユダがやって来た。さらに彼と一緒に大勢の群衆も剣と棒とを手にやって来た。大祭司たちや民の長老たちから遣わされたのであった。そしてこの裏切り者は、彼らとどのように合図を決めていた。私が口づけするのが、その人だ。それを捕らえろ！」  
そしてユダは、すぐイエスに近づいて言った。

ユダ

「こんばんは、先生！」

福音史家

そしてイエスに口づけをした。するとイエスは彼に言われた。

イエス

「友よ、なぜおまえは来たのか？」

福音史家

すると彼らが進み寄って来て、イエスに手をかけ捕らえた。

27a. アリア と 合唱

独唱 (二重唱)

そうして私のイエスは今よ！囚われの身となりました。

*合唱*  
*放せ、やめろ、縛るな！*

独唱 (二重唱)

月は欠け光は失われ  
苦痛にまみれて沈みはたのです。  
私のイエスが囚われてしまったのですから

*合唱*  
*放せ、やめろ、縛るな！*

独唱 (二重唱)

彼らがイエスを引き立てていったのです。縄で？ ぎとめて。

Nr.27b CHOR

Sind Blitze, sind Donner in Wolken verschwunden?  
Eröffne den feurigen Abgrund, o Hölle,  
Zertrümmre, verderbe, verschlinge, zerschelle  
Mit plötzlicher Wut  
Den falschen Verräter, das mörderische Blut!

Nr.28 RECITATIVO

Evangelista:

Und siehe, einer aus denen, die mit Jesu waren,  
reckete die Hand aus, und schlug des Hohenpriesters Knecht  
und hieb ihm ein Ohr ab. Da sprach Jesus zu ihm:

Jesus:

Stecke dein Schwert an seinen Ort; denn wer  
das Schwert nimmt, der soll durchs Schwert umkommen.  
Oder meinst du, daß ich nicht könnte meinen Vater bitten,  
daß er mir zuschickte mehr denn zwölf Legion Engel?  
Wie würde aber die Schrift erfüllet?  
Es muß also gehen.

Evangelista:

Zu der Stund sprach Jesus zu den Scharen:

Jesus:

Ihr seid ausgegangen als zu einem Mörder, mit Schwerten und  
mit Stangen, mich zu fahen;  
bin ich doch täglich bei euch gesessen und habe gelehret im  
Tempel, und ihr habt mich nicht gegriffen.  
Aber das ist alles geschehen, daß erfüllet würden die Schriften  
der Propheten.

Evangelista:

Da verließen ihn alle Jünger und flohen.

Nr.29 CHORAL

O Mensch, beweine dein Sünde groß,  
Darum Christus seins Vaters Schoß  
Äußert und kam auf Erden;  
Von einer Jungfrau rein und zart  
Für uns er hie geboren ward,  
Er wollt der Mittler werden.  
Den Toten er das Leben gab  
Und legt darbei all Krankheit ab,  
Bis sich die Zeit herdrange,  
Daß er für uns geopfert würd,  
Trüg unsrer Sünden schwere Bürd  
Wohl an dem Kreuze lange.

27b. 合唱

稲妻は、雷鳴は、雲の中に消えてしまったのか?  
燃え立つ奈落を開け、おお地獄よ、  
打ち壊せ、滅ぼせ、飲み込め、砕きつくせ、  
沸き上がる怒りをもって  
不実な裏切り者を、この人殺しの血を!

28. レチタティーヴォ

福音史家

そして見よ、イエスと一緒に居た者の一人が手を伸ばして剣を抜き、  
大祭司の手下に切りかかり その片耳を切り落とした。  
するとイエスは彼に言われた。

イエス

「その剣を元のさやに納めなさい、  
剣を取る者は皆、剣で滅びる定めなのだから。  
それとも、私が父にお願いして、十二軍団を越える天使を今すぐに  
でも送ってもらうことができないと思っているのか?  
しかしそれでは、(必ずこうなると書かれている)聖書の言葉は、どう成  
就されるだろうか? それは、もちろん成就されなければならないのだ。」

福音史家

その時イエスは群衆に言われた。

イエス

「あなたたちは、まるで人殺しにでも向かうように、剣や棒を持って私  
を捕らえようとしている。  
私は毎日、あなたたちの側に座って神殿の中で教えていたのに、あ  
なたたちは私を捕まえなかった。  
しかし、これらは全て、預言者たちの書いたことが成就されるために  
起こったのだ。」

福音史家

すると、弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げ出した。

29. コラール

おお、人よ、その罪の大ききに泣け、  
その罪がゆえに、救い主は父なる神の懐から  
出でて、この地に降りて来られたのだ。  
一人の清純で優しい乙女より  
私たちのために、この地上でお生まれになったのだ。  
救い主は神と私たちの仲介者となることを望まれた。  
彼は死んだ者に命をお与えになり  
そして病気の者を皆癒された。  
時は迫り  
彼は私たちのために生贄となられた。  
私たちの罪の重荷を、  
十字架と共に永く担ってくださったのである。

## 第 2部

### イエスを探すシオンの娘と同情するエルサレムの娘、大祭司の審問

---

#### Nr.30 ARIA & CHORUS

Solo:

Ach! nun ist mein Jesus hin!

*Chor*

*Wo ist denn dein Freund hingegangen,  
o du Schönste unter den Weibern?*

Solo:

Ist es möglich,  
kann ich schauen?

*Chor*

*Wo hat sich dein Freund hingewandt?*

Solo:

Ach! mein Lamm in Tigerklauen,  
Ach! wo ist mein Jesus hin?

*Chor*

*So wollen wir mit dir ihn suchen.*

Solo:

Ach! was soll ich der Seele sagen,  
Wenn sie mich wird ängstlich fragen:  
Ach! wo ist mein Jesus hin?

#### Nr.31 RECITATIVO

Evangelista:

Die aber Jesum gegriffen hatten, führten ihn zu dem Hohenpriester Kaiphas, dahin die Schriftgelehrten und Ältesten sich versammelt hatten. Petrus aber folgte ihm nach von ferne bis in den Palast des Hohenpriesters und ging hinein und setzte sich bei die Knechte, auf daß er sähe, wo es hinaus wollte. Die Hohenpriester aber und Ältesten und der ganze Rat suchten falsche Zeugnis wider Jesum, auf daß sie ihn töteten, und funden keines.

#### Nr.32 CHORAL

Mir hat die Welt trügerlich gericht'  
Mit Lügen und mit falschem G'dicht,  
Viel Netz und heimlich Stricke.  
Herr, nimm mein wahr in dieser G'fahr,  
B'hüt mich für falschen Tücken!

#### 30. アリア と 合唱

独唱

ああ！今はもうイエスは去ってしまわれたのです！

合唱

愛しいお方はどこへ行ってしまうられたのですか？  
おお、あなた、麗しきひとよ。

独唱

このようなことがあってよいのでしょうか？  
眼差しを向けられるのでしょうか？

合唱

愛しいお方はどこへ向かわれたのですか？

独唱

ああ！愛しい子羊は虎の爪に囚われ、  
ああ！愛しいイエスよ、どこに？

合唱

それならば私たちも共にその方を探し求めましょう。

独唱

ああ！どう答えれば良いのでしょうか、  
不安におののく魂がこぼれかきかけてきたら？  
ああ！私の愛しいイエスはどこ？と

#### 31. レチタティーヴォ

福音史家

さて、人々はイエスを捕らえると大祭司カイアファのところへ連れて行った。そこには、律法学者たちや長老たちが集まっていた。一方、ペテロは大祭司の屋敷までイエスの後を離れてついて行き、中に入って行ってこの成り行きを見ようと、下役たちと一緒に座っていた。そして、大祭司たちと長老たち、最高法院の全員は、イエスにとって不利な偽証を求め、彼を殺そうとした。しかし、何も見つからなかった。

#### 32. コラール

私は、この世の中に欺かれました、  
嘘と作り話、  
たくさんの網と密かな罟をもって。  
主よ、本来の私をこの危機から救ってください。  
不当な悪巧みから、私をお守りください！

Nr.33 RECITATIVO

Evangelista:

Und wiewohl viel falsche Zeugen herzutraten, funden sie doch keins. Zuletzt traten herzu zween falsche Zeugen und sprachen:

Testis / :

Er hat gesagt: Ich kann den Tempel Gottes abbrechen und in dreien Tagen denselben bauen.

Evangelista:

Und der Hohepriester stund auf und sprach zu ihm:

Pontifex:

Antwortest du nichts zu dem, das diese wider dich zeugen?

Evangelista:

Aber Jesus schwieg stille.

Nr.34 RECITATIVO

Mein Jesus schweigt  
Zu falschen Lügen stille,  
Um uns damit zu zeigen,  
Daß sein Erbarmens voller Wille  
Vor uns zum Leiden sei geneigt,  
Und daß wir in dergleichen Pein  
Ihm sollen ähnlich sein  
Und in Verfolgung stille schweigen.

Nr.35 ARIA

Geduld, Geduld!  
Wenn mich falsche Zungen stechen.  
Leid ich wider meine Schuld  
Schimpf und Spott,  
Ei, so mag der liebe Gott  
Meines Herzens Unschuld rächen.

Nr.36a RECITATIVO

Evangelista:

Und der Hohepriester antwortete und sprach zu ihm:

Pontifex:

Ich beschwöre dich bei dem lebendigen Gott, daß du uns sagest, ob du seiest Christus, der Sohn Gottes?

Evangelista:

Jesus sprach zu ihm:

Jesus:

Du sagests.  
Doch sage ich euch: Von nun an wirds geschehen, daß ihr sehen werdet des Menschen Sohn sitzen zur Rechten der Kraft und kommen in den Wolken des Himmels.

33. レチタティーヴォ

福音史家

そして多くの偽証人が出てきたが、やはり何も見出せなかった。最後に、二人の偽証人が進み出て来て、そして言った。

証人 /

「この男は言いました、私は神の神殿を打ち壊し、三日のうちにそれを建ててみせる」と。」

福音史家

そこで大祭司が立ち上がり、イエスに尋ねた。

大祭司

「おまえはこれに何も答えないのか？ この者たちは、おまえに不利な証言をしているのだぞ。」

福音史家

しかし、イエスは、じっと黙っておられた。

34. レチタティーヴォ

わがイエスは黙っておられる、  
不実な嘘に対して。  
それは私たちに示そうとされているのだ、  
その憐れみに満ちた御心が  
私たちのために、受難を受け入れようとしていることを。  
そして、私たちもこのような苦しみにある時には  
イエスと同じように  
迫害の中でもじっと黙ってしよう

35. アリア

耐えよ、耐えよ!

讒言を紡ぐ不実の舌が私を刺すとも  
私はこの身に注がれる讒訴に耐える、  
幾たび蔑まれ嘲罵されようとも、  
そう 私は信じているのだ、  
神によりて心雪がれることを

36a. レチタティーヴォ

福音史家

そこで大祭司は応えてイエスに言った。

大祭司

「生ける神に誓って我々に答えよ、おまえは神の子、キリストだと言つのか？」

福音史家

イエスは彼にお答えになった。

イエス

「あなたの言ったとおりだ。  
しかし、あなたたちに言うておく  
今より後、次のことが起きるのである  
あなたたちは人の子が、力ある者の右に座り、天の雲に乗って来るのを見る。」

Evangelista:  
Da zerriß der Hohepriester seine Kleider und sprach:

福音史家  
すると、大祭司は自分の衣を引き裂きながら言った。

Pontifex:  
Er hat Gott gelästert; was dürfen wir weiter Zeugnis?  
Siehe, itzt habt ihr seine Gotteslästerung gehöret.  
Was dünket euch?

大祭司  
「この男は神を冒<sup>ぼう</sup>流<sup>りゅう</sup>している。これ以上、証拠が必要だろうか？  
見よ、たった今あなたがたは神への冒流の言葉を耳にしたのだ。  
どう思うか？」

Evangelista:  
Sie antworteten und sprachen:

福音史家:  
彼らは答えて言った。

Nr.36b CHOR

36. 合唱

Er ist des Todes schuldig!

「そいつは死刑だ！」

Nr.36c RECITATIVO

36c. レチタティーヴォ

Evangelista:  
Da speieten sie aus in sein Angesicht und schlugen ihn mit Fäusten.  
Etliche aber schlugen ihn ins Angesicht und sprachen:

福音史家  
そして彼らはイエスの顔に唾を吐きかけ、拳で打った。  
またある者たちはイエスの顔を平手打ちして、言った。

Nr.36d CHOR

36d.

Weissage uns, Christe,  
wer ists, der dich schlug?

「言い当ててみる、キリストは、  
誰だ、おまえを殴ったのは？」

Nr.37 CHORAL

37. コラール

Wer hat dich so geschlagen,  
Mein Heil, und dich mit Plagen  
So übel zugericht?  
Du bist ja nicht ein Sünder  
Wie wir und unsre Kinder;  
Von Missetaten weißt du nicht.

誰があなたをそれほどまでに殴ったのですか？  
わが救い主よ、誰があなたを  
それほどまでの苦しみに追いやったのですか？  
あなたは全く罪人ではないのです。  
私たちや私たちの子孫と違うのです。  
あなたは悪行をご存知ないのです。

## ペテロの否認と後悔

Nr.38a RECITATIVO

38a. レチタティーヴォ

Evangelista:  
Petrus aber saß draußen im Palast;  
und es trat zu ihm eine Magd und sprach:

福音史家  
さて、ペテロは屋敷の中庭に座っていた。  
すると一人の女中が彼に寄って来て、言った。

Ancilla :  
Und du warest auch mit dem Jesu aus Galiläa.

女中  
「そう、おまえさんもガリラヤのイエスと一緒に居たね。」

Evangelista:  
Er leugnete aber vor ihnen allen und sprach:

福音史家  
ペテロはしかし、皆の前でそれを否定して、言った。

Petrus:  
Ich weiß nicht, was du sagest.

ペテロ  
「何のことを言っているのか、私には解らない。」

Evangelista:  
Als er aber zur Tür hinausging, sahe ihn eine andere  
und sprach zu denen, die da waren:

福音史家  
また、ペテロが門の方に行くと、他の女中が彼を見て、  
そこに居た人々に言った。

Ancilla :  
Dieser war auch mit dem Jesu von Nazareth.

Evangelista:  
Und er leugnete abermal und schwur dazu:

Petrus:  
Ich kenne des Menschen nicht.

Evangelista:  
Und über eine kleine Weile traten hinzu, die da stunden,  
und sprachen zu Petro:

Nr.38b CHOR

Wahrlich, du bist auch einer von denen:  
denn deine Sprache verrät dich.

Nr.38c RECITATIVO

Evangelista:  
Da hub er an, sich zu verfluchen und zu schwören:

Petrus:  
Ich kenne des Menschen nicht.

Evangelista:  
Und alsbald krähete der Hahn.  
Da dachte Petrus an die Worte Jesu, da er zu ihm sagte:  
Ehe der Hahn krähen wird,  
wirst du mich dreimal verleugnen.  
Und ging heraus und weinete bitterlich.

Nr.39 ARIA

Erbarme dich, mein Gott,  
Um meiner Zähren willen!  
Schaue hier, Herz und Auge  
Weint vor dir bitterlich.

Nr.40 CHORAL

Bin ich gleich von dir gewichen,  
Stell ich mich doch wieder ein;  
Hat uns doch dein Sohn verglichen  
Durch sein Angst und Todespein.  
Ich verleugne nicht die Schuld;  
Aber deine Gnad und Huld  
Ist viel größer als die Sünde,  
Die ich stets in mir befinde.

女中  
「この人も、ナザレのイエスと一緒にいた。」

福音史家  
しかし、ペテロは再びそれを否定して、誓って言った。

ペテロ  
私はそんな人を知らない。」

福音史家  
しばらくして、そこに居た人々が近寄って来て、  
ペテロに言った。

38b. 合唱

絶対におまえもあいつらの中のひとりだ。  
言葉遣いでわかるぞ。」

38c. レチタティーヴォ

福音史家  
するとペテロは激しい呪いの言葉を口にしながら、誓い始めた。

ペテロ  
私はそんな人のことは知らない。」

福音史家  
するとすぐに鶏が鳴いた。  
その時ペテロはイエスの言葉を思い出した。  
その中でイエスはペテロにこう言われたのだ。  
「鶏が鳴く前に、おまえは三度、私のことを知らないと言うだろう。」  
そして外に出て、激しく泣いた。

39. アリア

どうか憐れんでいただきたいのです、私の神よ。  
私の涙のゆえに。  
見ていただきたいのです。私の心も私の眼も  
あなたを前にして、滂沱と涙を流しています。

40. コラール

私はあなた(神)から離れることがあっても  
再びあなたの御許に戻ります。  
あなたの御子がその恐怖と死の苦しみにより  
私たちを救って下さいましたから  
私は自分の過ちを否定しません。  
しかし、あなたの慈悲と恩寵は、  
私のうちなる罪に勝って  
はるかに大きいのです。

## ユダの後悔と最後

### Nr.41a RECITATIVO

Evangelista:

Des Morgens aber hielten alle Hohepriester und die Ältesten des Volks einen Rat über Jesum, daß sie ihn töteten. Und bunden ihn, führten ihn hin und überantworteten ihn dem Landpfleger Pontio Pilato. Da das sahe Judas, der ihn verraten hatte, daß er verdammt war zum Tode, gereuete es ihn, und brachte herwieder die dreißig Silberlinge den Hohenpriestern und Ältesten und sprach:

Judas:

Ich habe übel getan, daß ich unschuldig Blut verraten habe.

Evangelista:

Sie sprachen:

### Nr.41b CHOR

Was gehet uns das an?  
Da siehe du zu!

### Nr.41c RECITATIVO

Evangelista:

Und er warf die Silberlinge in den Tempel, hub sich davon, ging hin und erhängete sich selbst. Aber die Hohenpriester nahmen die Silberlinge und sprachen:

Pontifex / :

Es taugt nicht, daß wir sie in den Gotteskasten legen, denn es ist Blutgeld.

### Nr.42 ARIA

Gebt mir meinen Jesum wieder!  
Seht, das Geld, den Mörderlohn,  
Wirft euch der verlorne Sohn  
Zu den Füßen nieder!

### Nr.43 RECITATIVO

Evangelista:

Sie hielten aber einen Rat und kauften einen Töpfersacker darum zum Begräbnis der Pilger. Daher ist derselbige Acker genennet der Blutacker bis auf den heutigen Tag. Da ist erfüllet, das gesagt ist durch den Propheten Jeremias, da er spricht: "Sie haben genommen dreißig Silberlinge, damit bezahlet ward der Verkaufte, welchen sie kauften von den Kindern Israel, und haben sie gegeben um einen Töpfersacker, als mir der Herr befohlen hat."

Evangelista:

Jesus aber stund vor dem Landpfleger; und der Landpfleger fragte ihn und sprach:

### 41a. レチタティーヴォ

福音史家

さて夜が明けると、大祭司たちと民の長老たち一同は、イエスを殺す手筈を決めた。そしてイエスを縛り、引き連れて行き、そして総督ポンティオ・ピラトに渡した。その時、イエスを裏切ったユダは、イエスに死刑の判決が下ったのを見て、後悔し、銀貨三十枚を大祭司たちと長老たちに返そうと言った。

ユダ

私は罪の無い人の血を売り渡すという罪を犯しました。」

福音史家

彼らは言った。

### 41b. 合唱

そんなこと、われわれの知ったことではない、おまえ自身でけりをつけるがいい!」

### 41c. レチタティーヴォ

福音史家

そこで、ユダはその銀貨を神殿へ投げ込んで、身を起こして立ち去り、首を吊って死んだ。そして大祭司たちは、その銀貨を拾い上げて言った。

祭司 /

「これは神殿の収入箱には入れられない。血の代金であるからだ。」

### 42. アリア

返せイエスを、私の許に!

見よ、倦みたる金を、<sup>見返</sup>弑逆の報酬を、  
放蕩息子がついに醒め、悔い改めて投げ返したのだ、  
あなたがたの足元に。

### 43. レチタティーヴォ

福音史家

そこで彼らは相談し、その金で「陶器職人の畑」を買い、外国人用の墓地にすることにした。そのため、この畑は今日まで「血の畑」と呼ばれている。こうして、預言者エレミアを通して言われていた言葉が成就した。彼はこう言っている。彼らは銀貨三十枚を拾った。それは、彼らがイスラエルの子孫から引き渡された人の、代価として支払われたものであった。彼らはこの金で陶器職人の畑を買い取った。主が私たちに命じられたとおりに。」

福音史家

さてイエスは総督の前に立たれた。総督はイエスに尋ねて言った。

Pilatus:  
Bist du der Jüden König?

Evangelista:  
Jesus aber sprach zu ihm:

Jesus:  
Du sagests.

Evangelista:  
Und da er verklagt war von den Hohenpriestern und Ältesten,  
antwortete er nichts.  
Da sprach Pilatus zu ihm:

Pilatus:  
Hörest du nicht, wie hart sie dich verklagen?

Evangelista:  
Und er antwortete ihm nicht auf ein Wort, also, daß sich auch der  
Landpfleger sehr verwunderte.

ピラト  
「おまえがユダヤ人の王なのか？」

福音史家  
イエスは彼に言われた。

イエス  
「あなたの言うとおりのだ。」

福音史家  
そこで、イエスは大祭司たちと長老たちとに訴えられたが、これには  
何もお答えにならなかった。  
そのときピラトがイエスに言った。

ピラト  
「聞こえないのか？ 彼らは、こんなに激しくおまえを訴えているのに。」

福音史家  
しかしイエスは彼に一言もお答えにならなかった。  
そのため、総督は非常に不思議に思った。

## 訊問と磔刑

### Nr.44 CHORAL

Befehl du deine Wege  
Und was dein Herze kränkt  
Der allertreusten Pflege  
Des, der den Himmel lenkt.  
Der Wolken, Luft und Winden  
Gibt Wege, Lauf und Bahn,  
Der wird auch Wege finden,  
Da dein Fuß gehen kann.

### Nr.45a RECITATIVO

Evangelista:  
Auf das Fest aber hatte der Landpfleger Gewohnheit, dem Volk  
einen Gefangenen loszugeben, welchen sie wollten.  
Er hatte aber zu der Zeit einen Gefangenen, einen  
sonderlichen vor andern, der hieß Barrabas.  
Und da sie versammelt waren, sprach Pilatus zu ihnen:

Pilatus:  
Welchen wollet ihr, daß ich euch losgebe? Barrabam oder  
Jesus, von dem gesaget wird, er sei Christus?

Evangelista:  
Denn er wußte wohl, daß sie ihn aus Neid überantwortet  
hatten. Und da er auf dem Richtstuhl saß, schickete sein Weib  
zu ihm und ließ ihm sagen:

Uxor Pilati:  
Habe du nichts zu schaffen mit diesem Gerechten; ich habe  
heute viel erlitten im Traum von seinem wegen!

Evangelista:  
Aber die Hohenpriester und die Ältesten überredeten das Volk,  
daß sie um Barrabas bitten sollten und Jesus umbrächten.  
Da antwortete nun der Landpfleger und sprach zu ihnen:

Pilatus:  
Welchen wollt ihr unter diesen zweien,  
den ich euch soll losgeben?

### 44. コラール

おまえの進むべき道と  
傷ついた心を委ねなさい、  
天上を治める  
最も信頼のおける方の助けに。  
その方は、雲にも、大気にも、そして風にも  
進む方向、道筋を教えてください。  
同様に、おまえの足が行ける道を見  
つけてくださるだろう

### 45a. レチタティーヴォ

福音史家  
さて、祭りの時ごとに、総督が、民衆が望む囚人を一人釈放する慣習  
があった。  
その頃、バラバといふ名の、悪名高い囚人が総督の所に居た。

そして人々が集まった時、ピラトは彼らに言った。

ピラト  
「おまえたちはどちらを赦して欲しいのか？ バラバか、それともキリスト  
と言われるイエスか？」

福音史家  
これはピラトが、人々がイエスをねたみから引き渡したということをよく  
分かっていたからである。そしてピラトが裁判の席に着いて居ると、ピ  
ラトの妻が人を遣わせて、彼に言させた。

ピラトの妻  
「あの正しい人には関わらないでください。その人のことで、私は昨夜、  
夢で随分苦しめられました！」

福音史家  
しかし、大祭司たちと長老たちは民衆を説得して、彼らがバラバの釈  
放を願い、イエスを死刑にするようにさせた。  
そこで、総督は答えて、彼らに言った。

ピラト  
「おまえたちは二人のうち、どちらを釈放して欲しいのか？」

Evangelista:  
Sie sprachen:

福音史家  
彼らは言った。

Chor:  
Barrabam!

合唱  
「バラバだ！」

Evangelista:  
Pilatus sprach zu ihnen:

福音史家  
ピラトは彼らに言った。

Pilatus:  
Was soll ich denn machen mit Jesu, von dem gesagt wird,  
er sei Christus?

ピラト  
「では、キリストと言われているイエスはどうすればいいのか？」

Evangelista:  
Sie sprachen alle:

福音史家  
彼らは皆、言った。

Nr.45b CHOR

45b. 合唱

Laß ihn kreuzigen!

「十字架にかけろ！」

Nr.46 CHORAL

46. コラール

Wie wunderbarlich ist doch diese Strafe!  
Der gute Hirte leidet für die Schafe,  
Die Schuld bezahlt der Herre, der Gerechte,  
Für seine Knechte.

なんと驚くべきこの刑罰！  
善き羊飼いは、その羊たちのために苦しみを受けられた。  
正義の方である主が、咎を贖われたのだ、  
そのしもべのために。

Nr.47 RECITATIVO

47. レチタティーヴォ

Evangelista:  
Der Landpfleger sagte:

福音史家  
総督は言った。

Pilatus:  
Was hat er denn Übels getan?

ピラト  
「彼はどんな悪事を働いたというのか？」

Nr.48 RECITATIVO

48. レチタティーヴォ

Er hat uns allen wohlgetan,  
Den Blinden gab er das Gesicht,  
Die Lahmen macht' er gehend,  
Er sagt' uns seines Vaters Wort,  
Er trieb die Teufel fort,  
Betrübte hat er aufgerichtet',  
Er nahm die Sünder auf und an.  
Sonst hat mein Jesus nichts getan.

彼は私たち全てに、良いことをしてくれました。  
目の見えない人に光を与え、  
足の不自由な人を歩ませ、  
彼は私たちに、父の御言葉を語り  
悪魔を追い払い、  
悲しむ者を立ち直らせ、  
そのうえ罪人を受け入れてくれました。  
私のイエスは、他には何もなさっていないのです。

Nr.49 ARIA

49. アリア

Aus Liebe will mein Heiland sterben,  
Von einer Sünde weiß er nichts,  
Daß das ewige Verderben  
Und die Strafe des Gerichts  
Nicht auf meiner Seele bliebe.

愛より出でてあなたは死のうとなされず、  
たったひとつの罪からも自由であるあなたが、  
それは永遠の滅びと  
裁きの罰から  
私の魂をお護りくださるためなのです。

Nr.50a RECITATIVO

Evangelista:

Sie schriehen aber noch mehr und sprachen:

Nr.50b CHOR

Laß ihn kreuzigen!

Nr.50c RECITATIVO

Evangelista:

Da aber Pilatus sahe, daß er nichts schaffete, sondern daß ein viel größer Getümmel ward, nahm er Wasser und wusch die Hände vor dem Volk und sprach:

Pilatus:

Ich bin unschuldig an dem Blut dieses Gerechten, sehet ihr zu.

Evangelista:

Da antwortete das ganze Volk und sprach:

Nr.50d CHOR

Sein Blut komme über uns  
und unsre Kinder.

Nr.50e RECITATIVO

Evangelista:

Da gab er ihnen Barrabam los; aber Jesum ließ er geißeln und überantwortete ihn, daß er gekreuziget würde.

50a. レチタティーヴォ

福音史家

しかし彼は、いっそう激しく叫んで言った。

50b. 合唱

十字架にかけろ！」

50c. レチタティーヴォ

福音史家:

そこでピラトは自分ではどうしようもなくなり かえって騒動が起こりそうなを見て、水を持って来させ、群衆の前で自分の手を洗い、そして言った。

ピラト

「この正しい人の血を流すことについて、私には責任が無い、おまえたち自身が始末しろ！」

福音史家

すると、すべての群衆が答えて言った。

50d. 合唱

その男の血の責任は、われわれと  
われわれの子孫の代まで及んでもいい！」

50e. レチタティーヴォ

福音史家

そこでピラトはバラバを解放し、イエスは鞭で打たせ、そして彼を引き渡した。彼を十字架に掛ける為である。

鞭打ち

---

Nr.51 RECITATIVO

Erbarm es Gott!

Heir steht der Heiland angebunden.

O Geißelung, o Schläg, o Wunden!

Ihr Henker, haltet ein!

Erweicht euch der Seelen Schmerz,

Der Anblick solches Jammers nicht?

Ach ja! ihr habt ein Herz,

Das muß der Martersäule gleich

Und noch viel härter sein.

Erbarmt euch, haltet ein!

51. レチタティーヴォ

憐れんでください、神よ!

ここに救い主が縛りあげられています。

おお 鞭打ち、おお 殴打、おお 傷!

刑吏よ、やめよ!

心の痛みに、手をゆるめさせることはできないのか、

このような悲惨な光景にも?

ああ そうだ! おまえたちにも心はある、

しかし、これではまるで拷問の柱のようだ。

いや、もっと残酷なものにちがいないし、

憐れむ心を持って、やめるのだ!

Nr.52 ARIA

Können Tränen meiner Wangen  
Nichts erlangen,  
O, so nehmt mein Herz hinein!  
Aber laßt es bei den Fluten,  
Wenn die Wunden milde bluten,  
Auch die Opferschale sein!

Nr.53a RECITATIVO

Evangelista:

Da nahmen die Kriegsknechte des Landpflegers Jesum zu sich  
in das Richthaus und sammelten über ihn die ganze Schar und  
zogen ihn aus und legeten ihm einen Purpurmantel an und  
flochten eine dornene Krone und setzten sie auf sein Haupt  
und ein Rohr in seine rechte Hand und beugten die Knie vor  
ihm und spotteten ihn und sprachen:

Nr.53b CHOR

Gegrüßet seist du, Jüdenkönig!

Nr.53c RECITATIVO

Evangelista:

Und speieten ihn an und nahmen das Rohr und schlugen  
damit sein Haupt.

Nr.54 CHROAL

O Haupt voll Blut und Wunden,  
Voll Schmerz und voller Hohn,  
O Haupt, zu Spott gebunden  
Mit einer Dornenkron,  
O Haupt, sonst schön gezieret  
Mit höchster Ehr und Zier,  
Jetzt aber hoch schimpfieret;  
Gegrüßet seist du mir!

Du edles Angesichte,  
Dafür sonst schrickt und scheut  
Das große Weltgewichte,  
Wie bist du so bespeit,  
Wie bist du so erleicht!  
Wer hat dein Augenlicht,  
Dem sonst kein Licht nicht gleicht,  
So schändlich zugericht'?

52. アリア

頬をつたうこの涙が  
なんの意味もなさないのなら  
おお、ならば、いっそ私の心を奪ってください！  
それでも、流れそのままに  
御傷より慈癒の血あふれるとき、  
受け止めさせてください、私の器で。血を、私の心で！

53a. レチタティーヴォ

福音史家

それから、総督の兵士たちはイエスを総督官邸に連れて行き、  
部隊全員をイエスの周りに集め、着ていた物を剥ぎ取り  
緋色の外套を着せ、茨で冠を編んでそれをイエスの頭に載せ、  
そして葦の棒を右手に持たせて、イエスの前にひざまずいて、  
馬鹿にして言った。

53b. 合唱

「これはこれはご機嫌うるわしゅう ユダヤの王様！」

53c. レチタティーヴォ

福音史家

そしてイエスに唾を吐きかけ、その葦の棒を取りあげて、  
それで彼の頭を打った。

54. コラール

おお、血と傷にまみれ、  
苦痛と嘲りにまみれた御頭よ、  
おお、嘲弄されるために  
棘の冠で締め付けられた御頭よ、  
おお、本来は最も高貴な栄光と誉れに  
美しい飾りを頂く御頭よ、  
しかし今は、はなはだしく名誉を傷つけられています。  
どうか、私にお顔を拜ませてください。

本来は巨大な世の権威にも  
驚嘆され、畏れられるべき  
その気高いお顔。  
それが、今はこのように唾を吐きかけられ、  
こんなにも蒼ざめておられます！  
他に比較するものもない  
あなたの目の輝きを、  
そんなにも冒涇したのは誰ですか？

## 十字架への道

---

### Nr.55 RECITATIVO

Evangelista:

Und da sie ihn verspottet hatten, zogen sie ihm den Mantel aus und zogen ihm seine Kleider an und führten ihn hin, daß sie ihn kreuzigten.

Und indem sie hinausgingen, funden sie einen Menschen von Kyrene mit Namen Simon; den zwungen sie, daß er ihm sein Kreuz trug.

### Nr.56 RECITATIVO

Ja freilich will in uns das Fleisch und Blut  
Zum Kreuz gezwungen sein;  
Je mehr es unsrer Seele gut,  
Je herber geht es ein.

### Nr.57 ARIA

Komm, süßes Kreuz, so will ich sagen,  
Mein Jesu, gib es immer her!  
Wird mir mein Leiden einst zu schwer,  
So hilfst du mir es selber tragen.

### 55. レチタティーヴォ

福音史家

このように兵士たちはイエスを笑いものにしたあげく  
外套を剥ぎ取り もとの服を着せ、  
十字架にかけける為にイエスを引いて行った。  
そして彼らがそこを出て行くと  
シモンといふ名のキレネ人に出会ったので、  
イエスの十字架を無理やり背負わせた。

### 56. レチタティーヴォ

そう 明らかに私たちの中の肉と血も  
十字架を強いられるだろう  
私たちの魂にとって良いものほど  
それはより苦くなるのだから

### 57. アリア

私は望もう 来たれ甘き十字架、と  
イエスよ、それをいつでも与え、負わせてください。  
艱難の重さに足弱り 立ち竦むとき、  
あなたの御力を添えてください。この道をゆくために。

## 十字架上のイエス

---

### Nr.58a RECITATIVO

Evangelista:

Und da sie an die Stätte kamen mit Namen Golgatha, das ist verdeutschet Schädelstätt, gaben sie ihm Essig zu trinken mit Gallen vermischet; und da ers schmeckete, wollte ers nicht trinken.

Da sie ihn aber gekreuziget hatten, teilten sie seine Kleider und wurfen das Los darum, auf daß erfüllet würde, das gesagt ist durch den Propheten: "Sie haben meine Kleider unter sich geteilet, und über mein Gewand haben sie das Los geworfen."

Und sie saßen allda und hüteten sein.

Und oben zu seinen Häupten hefteten sie die Ursach seines Todes beschrieben, nämlich: "Dies ist Jesus, der Jüden König."

Und da wurden zween Mörder mit ihm gekreuziget, einer zur Rechten und einer zur Linken.

Die aber vorübergingen, lästerten ihn und schüttelten ihre Köpfe und sprachen:

### 58a. レチタティーヴォ

福音史家

そして兵士たちはゴルゴタといふ名の場所、すなわち「されこうべの場所」に着くと、イエスに苦みを混ぜた酸っぱいぶどう酒を飲ませようとした。そしてイエスはそれを舐めたが、飲もうとはされなかった。それから彼らはイエスを十字架にかけると、くしを引いてその服を分けた。これは預言者を通して預言されたことが成就する為である。  
『彼らは私の服を彼らで分けあい、私の衣をめぐってくしを引いた。』

そして、彼らはそこに座って見張りをしていた。  
また、彼らはイエスの頭上に、死罪の罪状書きを掲げた。  
『これはイエス、ユダヤの王である。』

さらに二人の人殺しが、一人はイエスの右に、また一人は左に、イエスと共に十字架にかけられた。  
通りかかった人々は、イエスを罵り 頭を振りながら<sup>6)</sup>言った。

<sup>6)</sup> 当時の輕蔑の動作

### Nr.58b CHOR

Der du den Tempel Gottes zerbrichst  
und bauest ihn in dreien Tagen,  
hilf dir selber!  
Bist du Gottes Sohn,  
so steig herab vom Kreuz!

### 58b. 合唱

神殿を壊して、  
三日のうちにそれを建て直す者よ、  
自分で自分を救ってみろ!  
おまえが神の子ならば、  
十字架から降りて来い!」

Nr.58c RECITATIVO

Evangelista:

Desgleichen auch die Hohenpriester spotteten sein samt den Schriftgelehrten und Ältesten und sprachen:

Nr.58d CHOR

Andern hat er geholfen  
und kann ihm selber nicht helfen.  
Ist er der König Israel,  
so steige er nun vom Kreuz,  
so wollen wir ihm glauben.  
Er hat Gott vertrauet,  
der erlöse ihn nun, lüstets ihn;  
denn er hat gesagt: Ich bin Gottes Sohn.

Nr.58e RECITATIVO

Evangelista:

Desgleichen schmäheten ihn auch die Mörder,  
die mit ihm gekreuziget waren.

Nr.59 RECITATIVO

Ach Golgatha, unselges Golgatha!  
Der Herr der Herrlichkeit muß schimpflich hier verderben,  
Der Segen und das Heil der Welt  
Wird als ein Fluch ans Kreuz gestellt.  
Der Schöpfer Himmels und der Erden  
Soll Erd und Luft entzogen werden.  
Die Unschuld muß hier schuldig sterben,  
Das gehet meiner Seele nah:  
Ach Golgatha, unselges Golgatha!

Nr.60 ARIA & CHOR

Solo:

Sehet, Jesus hat die Hand,  
Uns zu fassen, ausgespannt:  
Kommt!

*Chor*  
Wohin?

Solo:

In Jesu Armen,  
Sucht Erlösung, nehmt Erbarmen,  
Suchet!

*Chor*  
Wo?

Solo:

In Jesu Armen.  
Lebet, sterbet, ruhet hier,  
Ihr verlaßnen Küchlein ihr,  
Bleibet

*Chor*  
Wo?

Solo:

In Jesu Armen.

58c. レチタティーヴォ

福音史家

同じように大祭司たちも、律法学者たちや長老たちと一緒に嘲笑って言った。

58d. 合唱

彼は他人を救ったが、  
自分を救うことはできない。  
彼がイスラエルの王であるなら  
今すぐ十字架から降りればよいのだ。  
そうしたら、彼を信じようではないか。  
彼は神を信頼してきたのだ。  
神が彼を真にお望みならば、今すぐ彼を救い出されよ。  
彼は言っていたのだから、私は神の子である。」

58e. レチタティーヴォ

福音史家

同じように、人殺したちも彼を罵った。  
イエスと共に十字架につけられた者たちまでもが、である。

59. レチタティーヴォ

ああ ゴルゴタ、不幸なゴルゴタよ！  
栄光ある主が、辱められ滅びに瀕しています。  
この世の祝福と救いが  
神を冒瀆するものとして十字架にかけられました。  
天地の創造主が  
大地と大気を奪われようとしています。  
罪無き人がここでは罪人として死ななければならぬ、  
それが、私の魂を悲しませるのです。  
ああ ゴルゴタ、不幸なゴルゴタよ！

60. アリア と 合唱

独唱

見なさい、イエスを、御腕をひろげられたお姿を。  
ひろげた翼は私たちを包み抱いてくださるうと  
しているのです。来なさい！

合唱  
どこへ？

独唱

イエスの御腕に。  
求めて解き放たれなさい、憐れみを受けるのです。  
こいねが  
希いなさい！

合唱  
どこに？

独唱

イエスの御腕に。  
ここで生き、ここに死に、こへ安らいなさい。  
見捨てられた雑たちよ、  
留まりなさい！

合唱  
どこへ？

独唱

イエスの御腕に。

## イエスの死

### Nr.61a RECITATIVO

Evangelista:

Und von der sechsten Stunde an war eine Finsternis über das ganze Land bis zu der neunten Stunde.  
Und um die neunte Stunde schrie Jesus laut und sprach:

Jesus:

Eli, Eli, lama asabthani?

Evangelista:

Das ist :  
Mein Gott, mein Gott, warum hast du mich verlassen?

Evangelista:

Etliche aber, die da stunden, da sie das hörten, sprachen sie:

### Nr. 61b CHOR

Der rufet dem Elias!

### Nr.61c RECITATIVO

Evangelista:

Und bald lief einer unter ihnen, nahm einen Schwamm und füllte ihn mit Essig und steckte ihn auf ein Rohr und tränkete ihn.  
Die andern aber sprachen:

### Nr.61d CHOR

Halt! Laß sehen,  
ob Elias komme und ihm helfe?

### Nr.61e RECITATIVO

Evangelista:

Aber Jesus schrie abermal laut und verschied.

### Nr.62 CHORAL

Wenn ich einmal soll scheiden,  
So scheide nicht von mir,  
Wenn ich den Tod soll leiden,  
So tritt du denn herfür!  
Wenn mir am allerbängsten  
Wird um das Herze sein,  
So reiße mich aus den Ängsten  
Kraft deiner Angst und Pein!

### Nr.63a RECITATIVO

Evangelista:

Und siehe da, der Vorhang im Tempel zerriß in zwei Stück von oben an bis unten aus.

### 61a. レチタティーヴォ

福音史家

さて、昼の十二時から暗闇が地を覆いつくし、それが午後三時まで続いた。  
そして午後三時頃、イエスは大声で叫んで、言われた。

イエス

「エリ エリ ラマ、アザブタニ！」

福音史家

これは、『わが神、わが神よ、どうして私をお見捨てになったのですか?』という意味である。

福音史家

すると、そこに居合わせた何人かが、これを聞いて、言った。

### 61b. 合唱

「あいつはエリヤを呼んでいるぞ！」

### 61c. レチタティーヴォ

福音史家

するとすぐに一人がイエスのもとに走り寄り、海綿を取って酸っぱいぶどう酒を含ませ、葦の棒に付けて彼に飲ませようとした。  
しかし、また他の者が言った。

### 61d. 合唱

「待て! エリヤが彼を救いに来るかどうか、見てみようじゃないか！」

### 61e. レチタティーヴォ

福音史家

しかしイエスは再び大声で叫び、そして息を引き取られた。

### 62. コラール

いつの日か私が死に行く時、  
どうか私から離れないでください。  
私が死に苦しむ時、  
どうか私の所へ来てください!  
私の心が大きな不安で  
閉ざされた時、  
どうか恐怖から救ってください、  
あなたの受けた恐怖と苦痛をもって。

### 63a. レチタティーヴォ

福音史家

すると見よ、神殿の幕が、上から下まで真っ二つに裂けた。

Und die Erde erbebete, und die Felsen zerrissen, und die Gräber täten sich auf, und stunden auf viel Leiber der Heiligen, die da schliefen, und gingen aus den Gräbern nach seiner Auferstehung und kamen in die heilige Stadt und erschienen vielen.

Aber der Hauptmann und die bei ihm waren und bewahreten Jesum, da sie sahen das Erdbeben und was da geschah, erschrakten sie sehr und sprachen:

Nr.63b CHOR

Wahrlich, dieser ist Gottes Sohn gewesen.

さらに地震が起き、岩が裂け、墓が次々と開き、そこで眠っていた多くの聖徒たちの体が生き返った。そしてイエスの復活の後に、その墓から出てきて、聖なる都に入り 多くの人々の前に現われた。

さて百人隊長や、共にイエスの見張りをしていた者たちは、地震やその時起こった出来事を見て、非常に驚き恐れて言った。

63b. 合唱

本当に、この人は神の子だったのだ・・・」

## 埋葬

Nr.63c RECITATIVO

Evangelista:

Und es waren viel Weiber da, die von ferne zusahen, die da waren nachgefolget aus Galiläa und hatten ihm gedienet, unter welchen war Maria Magdalena, und Maria, die Mutter Jacobi und Joses, und die Mutter der Kinder Zebedäi.

Am abend aber kam ein reicher Mann von Arimathia, der hieß Joseph, welcher auch ein Jünger Jesu war, der ging zu Pilato und bat ihn um den Leichnam Jesu.

Da befahl Pilatus, man sollte ihm ihn geben.

63c. レチタティーヴォ

福音史家

またそこには多くの女たちが居て、その様子を遠くから見守っていた。彼女たちは、ガリヤから従ってきてイエスに仕えてきた人たちである。その中には、マグダラのマリアと、ヤコブとヨセフの母のマリア、そしてゼベダイの子たちの母も居た。

さて夕方になってアリマタヤの金持ちで、ヨセフという人がやって来た。彼もまた、イエスの弟子であった。彼はピラトのところへ行き、イエスの遺体を引き渡してくれるようお願いした。

そこでピラトは、彼にイエスの遺体を渡すよう命じた。

Nr.64 RECITATIVO

Am Abend, da es kühle war,  
Ward Adams Fallen offenbar;  
Am Abend drücket ihn der Heiland nieder.  
Am Abend kam die Taube wieder  
Und trug ein Ölblatt in dem Munde.  
O schöne Zeit! O Abendstunde!  
Der Friedensschluß ist nun mit Gott gemacht,  
Denn Jesus hat sein Kreuz vollbracht.  
Sein Leichnam kömmt zur Ruh.  
Ach! liebe Seele, bitte du,  
Geh, lasse dir den toten Jesum schenken,  
O heilsames, o köstlichs Angedenken!

64. レチタティーヴォ

夕暮れ、涼しき時に、  
アダムの墜落は明らかになった。  
夕暮れに救い主はそれを克服された。  
夕暮れに鳩が戻り  
口にはオリーブの葉をくわえていた。  
おお 美しき時よ! おお 夕暮れの時よ!  
平和の契りが、今や神と取り交わされた。  
イエスとその十字架を成就されたのだから、  
彼の亡骸は憩いにつく。  
ああ! 愛しき魂よ、願うのだ。  
行って、死んだイエスをもらい受けてくるのだ。  
ああ 救いをもたらす、ああ 尊き形見を!

Nr.65 ARIA

Mache dich, mein Herze, rein,  
Ich will Jesum selbst begraben.  
Denn er soll nunmehr in mir  
Für und für  
Seine süße Ruhe haben.  
Welt, geh aus, laß Jesum ein!

65. アリア

清めよわが心、心を澄ませよ。  
自らを墓として、この手でイエスをお納めしよう  
心の内にイエスを迎え、  
永く永く  
安らいでいただくために。  
世よ、去れ。求めよ、イエスを。

Nr.66a RECITATIVO

Evangelista:

Und Joseph nahm den Leib und wickelte ihn in ein rein  
Leinwand und legte ihn in sein eigen neu Grab, welches er  
hatte lassen in einen Fels hauen, und wälzete einen großen  
Stein vor die Tür des Grabes und ging davon.

Es war aber allda Maria Magdalena und die andere Maria,  
die satzten sich gegen das Grab.

Des andern Tages, der da folget nach dem Rüsttage, kamen die  
Hohenpriester und Pharisäer sämtlich zu Pilato und sprachen:

Nr.66b CHOR

Herr, wir haben gedacht,  
daß dieser Verführer sprach,  
da er noch lebete:

Ich will nach dreien Tagen wieder auferstehen.  
Darum befiehl, daß man das Grab verwahre

bis an den dritten Tag,  
auf daß nicht seine Jünger kommen  
und stehlen ihn und sagen zu dem Volk:

Er ist auferstanden von den Toten,  
und werde der letzte Betrug ärger denn der erste!

Nr.66c

Evangelista:

Pilatus sprach zu ihnen:

Pilatus:

Da habt ihr die Hüter: gehet hin und verwahrets, wie ihrs wisset!

Evangelista:

Sie gingen hin und verwahreten das Grab mit Hütern  
und versiegelten den Stein.

66a. レチタティーヴォ

福音史家

そしてヨセフは遺体を受け取ると、きれいな亜麻布に包んで、  
岩を掘って造らせた彼の新しい墓の中に納め、  
そしてその墓の入り口には大きな石を転がしておいて、  
その場を立ち去った。

マグダラのマリアともう一人のマリアはそこに残り  
墓の方を向いて座っていた。

明るる日、すなわち準備の日の翌日、大祭司たちとファリサイ人た  
ちと一緒にピラトの所に来て言った。

66b. 合唱

総督、思い出しました、  
このいんちき野郎がまだ生きていた時に、  
こう言っていたことを。

私は三日の後に、再びよみがえるだろう  
ですから、誰かに命じて、

三日目まで墓を見張らせてください。  
この男の弟子たちが来て、こいつの死体を盗んで、

民衆に『イエス様は死者の中から復活された』  
などと言いつらしたりしないようにです。

そんなことになれば、皆、最初よりもっとも  
ひどくたまされてしまいます！」

66c. レチタティーヴォ

福音史家

ピラトは彼らに言った。

ピラト

番人が居るはずだ。行ってしっかり見張らせておけ！」

福音史家

彼らは行って番人と共に墓を見張り  
石に封印をした。

Nr.67 RECITATIVO & CHORUS

Solo(Baß):

Nun ist der Herr zur Ruh gebracht.

*Chor*  
*Mein Jesu, gute Nacht!*

Solo(Tenor):

Die Müh ist aus, die unsre Sünden ihm gemacht.

*Chor*  
*Mein Jesu, gute Nacht!*

Solo(Alt):

O selige Gebeine, Seht,  
Wie ich euch mit Buß und Reu beweine,  
Daß euch mein Fall in solche Not gebracht!

*Chor*  
*Mein Jesu, gute Nacht!*

Solo(Sopran):

Habt lebenslang vor euer Leiden tausend Dank,  
Daß ihr mein Seelenheil so wert geacht'.

*Chor*  
*Mein Jesu, gute Nacht!*

Nr.68 CHORUS

Wir setzen uns mit Tränen nieder  
Und rufen dir im Grabe zu:

Ruhe sanfte, sanfte ruh!

*Chor*  
Ruht, ihr ausgesognen Glieder!

*Chor*  
Ruhet sanfte, ruhet wohl!

*Chor*  
Euer Grab und Leichenstein  
Soll dem ängstlichen Gewissen  
Ein bequemes Ruhe-kissen  
Und der Seelen Ruhstatt sein.

*Chor*  
Ruhet sanfte, sanfte ruht!

*Chor*  
Höchst vergnügt schlummern da die Augen ein.

67. レチタティーヴォ と 合唱

独唱 (バス)

今や主は憩いにおつきになった。

合唱  
私のイエスよ、おやすみください!

独唱 (テノール)

私たちの罪が主に負わせた労苦は終わった。

合唱  
私のイエスよ、おやすみください!

独唱 (アルト)

おお安らかな亡骸よ、ご覧ください、  
私が悔悟と後悔であなたを嘆き悲しむさまを。  
私の墮落が、あなたをこのような苦難に追いやったのですから!

合唱  
私のイエスよ、おやすみください!

独唱 (ソプラノ)

生きている限り あなたの受難に幾度となく感謝します。  
あなたは私の魂の救いを、とても大切にしてくださったのですから

合唱  
私のイエスよ、おやすみください!

68. 合唱

私たちは涙を流してひざまずき、  
墓の中のあなたに呼びかけます。

「お眠りください、どうぞ安らかに!」

第1合唱  
「休めてください、あなたの傷ついたお体を!」

第2合唱  
「お眠りください、安らかに、ゆっくりと。」

第1合唱  
あなたの御墓と墓石は  
不安を抱えた良心にとって  
心地良い寝床となり  
魂の憩いの場所となるのです。

第2合唱  
「お眠りください、安らかに、安らかに!」

第1合唱  
そうして、あなたはこの上なく満ち足りた眠りにつくのです。

[聖書用語の解説については 聖書 新共同訳を参照した。]



つじ ひでゆき  
指揮 **辻 秀幸**

Ensemble 14 指揮者。東京芸術大学声楽科卒業 及び 同大学院独唱科修了。  
声楽を渡邊高之助、宗教音楽を小林道夫、佐々木正利の各氏に師事。1985 年イタリアのミラノを中心にヨーロッパへ音楽遊学。L.グッアリーニ女史、F.タリアヴィーニ、H.リリングらの各氏に師事。

1986 年イタリアのノバ市国際声楽コンクール入賞。同年ドイツのハイデルベルク、1988-89 年にはウィーン楽友協会大ホール、2000 年にはカイザースラウテルン、パッサウ他、数都市でベートーヴェン「第 9」のソリストを務め、ヨーロッパ各地でコンサートに出演し好評を博す。国内でもドイツ・イタリア・日本歌曲を中心に各地でユニークなリサイタル活動を展開している。オペラにも数多く出演し、その優れた演技力と歌唱は、新聞・音楽誌上でも度々絶賛された。宗教音楽の演奏家としての活躍は特に目覚ましく、バッハ・ヘンデル・ハイドンの宗教曲・オラトリオの演奏では、ソリスト・エヴァンゲリストまた指揮者として、その活動は常に注目を集めている。現在指導に当たるアマチュアコーラスは十七団体を数える。

洗足学園音楽大学講師、尚美学園大学 新音楽集団「匠」指揮者、ぐるーぶ・なーべ幹事、日本合唱指揮者協会理事、アンサンブル BWV2001 メンバー、iARTS 理事。

共著に「わかって歌おう - レクイエム発音講座」、「フィガロの結婚 発音講座」等の CD ブックがある。

おおしま ひろし  
福音史家 **大島 博**

中央大学法学部卒業後、東京芸術大学声楽科に入学。  
渡辺高之助、高丈二、中山悌一、原田茂生の各氏に師事。

1986 年芸大大学院在学中にミュンヘン音楽大学に留学、エルンスト・ヘフリガーに学ぶ。1989 年芸大大学院博士課程に進学。90 年～91 年ディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウに師事。同氏の薦により 1991 年 C.アバド指揮のベルリンフィル・シルベスターコンサートに出演したのをはじめ、宗教曲、とりわけバッハ作品の演奏者として、また、ドイツ・リート及び日本歌曲の歌手として数多くのコンサートに出演している。1995 年芸大博士課程を学位取得修了。

96 年より「ドイツ・リートのたのしみ」と題した、リートを知るためのレクチャー・シリーズを継続中  
近年は、合唱指揮者としてもその活動の幅を広げている。アンサンブル BWV2001 メンバー。

おばら じょうじ  
イエス **小原 浄二**

岩手大学卒業後、東京芸大声楽科に進学し首席で卒業。松田トシ賞受賞。同大学院独唱科修了。佐々木正利、伊藤亘行、多田羅迪夫の各氏に師事。

ドイツリート・オラトリオを中心に研鑽を積み、東京芸大時代には小林道夫氏のもとバッハカンタータクラブに所属し研究・演奏を行う

その後、国内外の演奏会にソリストとして出演。1992～1994 年には鈴木雅明氏が音楽監督を務めるバッハコレギウムジャパンのコーラスマスター及びソリストとして活躍。

1994～1995 年、ドイツに留学し H.クレッチマーに師事すると共に多数の演奏会に出演。特にミュンヘン・ヘラクレスホールにおけるニュルンベルク交響楽団定期公演、J.ツィルビ指揮、ハイドン「天地創造」バスソロなどは現地新聞紙上等において絶賛される。

帰国後も全国各地に招かれソロ活動を行い、宗教音楽の世界的名指揮者である H.J.ロツチュ G.Ch.ヒラー等との共演や、新日本フィルハーモニー交響楽団定期公演における G.ボッセとの共演などで高い評価を得ている。現在、高知大学助教授。高知バッハカンタータフェライン指揮者。アンサンブル BWV2001 メンバー。

たしろ かずひさ  
ピラト **田代 和久**

東京芸術大学音楽科卒業。同大学院修了。東京芸術大学大学院独唱科修了。芸大定期バッハ「マタイ受難曲」、同バッハ「カンタータ147番」のソリストをつとめる。

モーツァルト「フィガロの結婚」、「ドン・ジョヴァンニ」、プッチーニ「蝶々夫人」ラ「ボエーム」、グノー「ロオとジュリエット」、ワーグナー「恋愛禁制」、ヴェルディ「特姫」、「二人のフォスカリ」など多数のオペラの主要な役で出演。ハイドン「四季」、ドボルザーク「テデウム」、モーツァルト「戴冠ミサ」、ヘンデル「メサイア」、バッハ「短調ミサ」、ベートーベン「第九」、メンデルスゾーン「エアリア」、フォーレ「レクイエム」等のソロに出演。第 35 回日伊声楽コンクール、第 65 回日本音楽コンクール入選。第 10 回奏楽堂日本歌曲コンクール奨励賞受賞。第 6 回 J.S.G 国際歌曲コンクールシニア部門第 3 位入賞。第 10 回日本声楽コンクール第 1 位およびドイツ歌曲の歌唱に対し田中路子賞受賞。アンサンブル BWV2001 メンバー。日伊音楽協会会員。常葉学園大学専任講師。東京オペラ・プロデュースメンバー。二期会会員。

## 管弦楽 Millennium Bach Ensemble (ミレニアム・バッハ・アンサンブル)

2000年4月に田園調布教会で行われた「マタイ受難曲」演奏会において辻秀幸先生の呼びかけにより結成される。各方面で活躍中の若手演奏家からなる器楽団体。第2回演奏会以降、Ensemble14との共演が続いている。

### 第1オーケストラ

第1ヴァイオリン	大西 律子
	小池 吾郎
第2ヴァイオリン	佐藤 泉
	宮崎 桃子
ヴィオラ	幡谷 久仁子
チェロ	西沢 央子
コントラバス	西澤 誠治
オーボエ	江崎 浩司
トラヴェルソ&リコーダ	菊池 香苗

### 第2オーケストラ

第1ヴァイオリン	長岡 聡季
	鍋谷 里香
第2ヴァイオリン	高橋 真二
	星野 麗
ヴィオラ	深沢 美奈
チェロ	多井 智紀
コントラバス	小室 昌広
オーボエ	森 綾香
トラヴェルソ&リコーダ	国枝 俊太郎

ヴィオラ・ダ・ガンバ	深沢 美奈
ファゴット	功刀 貴子
チェンバロ	芝崎 久美子
オルガン	能登 伊津子

## 声楽 Ensemble 14 (アンサンブル・フィアツェン)

辻秀幸先生のもとで J.S. バッハのカンタータを歌うアマチュア合唱団。1998 年 8 月結成。  
ソリスは団内から選出し、プロのオーケストラ (現代楽器) と共演する演奏スタイルで、東京周辺にて活動。

- |            |   |
|------------|---|
| 1999 年 4 月 | マタイ受難曲の抜粋演奏 (ピアノ伴奏) に、「マタイを歌う会」とともに出演<br>(日本基督教団奥沢教会)                 |
| 1999 年 9 月 | 第 1 回演奏会 カンタータ第 150 番、第 155 番、第 106 番<br>(ルーテル市ヶ谷センター)                |
| 2000 年 4 月 | マタイ受難曲の全曲演奏に第 2 コーラスとして出演<br>(日本基督教団田園調布教会)                           |
| 2000 年 9 月 | 第 2 回演奏会 カンタータ第 196 番、第 131 番、第 182 番<br>(神奈川県民ホール小ホール)               |
| 2001 年 3 月 | 第 3 回演奏会 カンタータ第 22 番、第 48 番、第 23 番<br>(すみだトリフォニーホール小ホール)              |
| 2001 年 9 月 | 第 4 回演奏会 カンタータ第 1 番、第 2 番、第 140 番<br>(川口総合文化センターリリア音楽ホール)             |
| 2002 年 3 月 | 第 5 回演奏会 カンタータ第 36 番、第 61 番、ミサ曲 短調<br>(三鷹市芸術文化センター風のホール)              |
| 2002 年 9 月 | 第 6 回演奏会 カンタータ第 5 番、第 4 番、第 70 番<br>(四谷区民ホール)                         |
| 2003 年 5 月 | 第 7 回演奏会 ヨハネ受難曲<br>(津田ホール)  |
| 2004 年 3 月 | 第 8 回演奏会 カンタータ第 17 番、第 44 番、第 139 番、モテット BWV227<br>(三鷹市芸術文化センター風のホール) |
| 2004 年 9 月 | 第 9 回演奏会 カンタータ第 4 番、第 6 番、ミサ曲 長調<br>(横浜みなとみらいホール 小ホール)                |

## Ensemble 14 メンバー

指揮者 : 辻 秀幸      練習ピアニスト : 田城 章子  
代表 : 武内 崇史      副代表 : 内藤 秀司  
練習指揮 : 小泉 孝博      北郷 博美      室橋 明美

Soprano	青瀧 憲子	岩倉 ひろみ	浦沢 千代	奥村 優子	鹿島 晶子
	川村 昌子	木藤 裕子	木下 祐子	子井野 真貴子	小林 総子
	崎谷 芳恵	高橋 磯美	中神 康一	長澤 いぶき	永沼 とも江
	浜崎 麗子	林 玲子	湊 佳代	室橋 明美	
Alto	赤木 詩子	上田 暁子	小田 奈穂子	柿原 紀子	小林 愛子
	重野 真奈美	鈴木 香奈	名倉 芳実	林田 素子	広瀬 由紀子
	北郷 博美				
Tenor	江端 員好	北村 和也	小泉 孝博	内藤 秀司	中西 隆紀
	羽田 耕太郎	室橋 義明			
Bass	加藤 正	木下 剛	小林 英夫	菅野 松佐登	武内 崇史
	林 秀博	三浦 貴博			

解説 : 木下 剛  
対訳 : 岩倉 ひろみ、江端 員好  
羽田 耕太郎、室橋 明美  
校正 : 上田 暁子、柿原 紀子  
プログラム : 北郷 博美



### 一緒に歌いませんか

Ensemble14 では一緒に歌って下さる方を随時募集しております。 << アルト急募！ >>

バッハが大好きな方はもちろん、バッハが初めての方も歓迎です。

指導：辻 秀幸 先生 練習日：毎週土曜日（午前または午後）

練習場所：自由が丘、武蔵小杉など

お問い合わせ：北郷<sup>ほんごう</sup> (Tel: 090-2757-8167)

e-mail (info@ensemble14.org)

ホームページ：http://www.ensemble14.org/



### 第11回演奏会のご案内

2006年6月

J.S.バッハ作曲 BWV 8, 99, 105, 187

後援 **JCDA** 日本合唱指揮者協会